

津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事

図面リスト											
	図番	図面名称	縮尺		図番	図面名称	縮尺		図番	図面名称	縮尺
【建築工事】				【電気設備工事】				【機械設備工事】			
	A-01	特記仕様書1	—		E-01	電気設備工事特記仕様書1	—		M-01	機械設備工事特記仕様書1	—
	A-02	特記仕様書2	—		E-02	電気設備工事特記仕様書2	—		M-02	機械設備工事特記仕様書2	—
	A-03	特記仕様書3	—		E-03	電気設備工事特記仕様書3	—		M-03	空調換気設備 1階平面図(改修後)	S=1/100
	A-04	特記仕様書4	—		E-04	1階動力弱電設備平面図(改修前・改修後)	S=1/100		M-04	給排水衛生設備 1階平面詳細図(改修前・後)	S=1/50
	A-05	特記仕様書5	—		E-05	1階電灯コンセント設備平面図(改修前・改修後)	S=1/100		M-05	給排水衛生設備 2、3階平面詳細図(改修後)	S=1/50
	A-06	付近見取図・配置図兼仮設計画図	S=1/800		E-06	1階弱電設備平面図(改修後) 2階電灯設備平面図(改修後)	S=1/100・1/400				
	A-07	仕上表	—								
	A-08	各階平面図(改修前)兼仮設計画図	S=1/200								
	A-09	一階平面図(改修前)、飼育小屋詳細図	S=1/50・200								
	A-10	一階平面図(改修後)	S=1/200								
	A-11	1階平面詳細図(改修前)	S=1/30・50								
	A-12	1階平面詳細図(改修後)	S=1/30・50								
	A-13	展開図(改修後)	S=1/50								
	A-14	2、3階配膳室平面詳細図、展開図(改修前・後)	S=1/50								
	A-15	1、2階天井伏図(改修前・後)	S=1/100								
	A-16	キーブラン・建具表(改修前・後)	S=1/50								
	A-17	雑詳細図	S=1/7・10・20 ・30・200								

原図:A 2

ARCHITECTS DESIGN 倉空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称	図面内容		図面番号
					図面リスト	年月日	
				津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	—	区分	枚ノ内

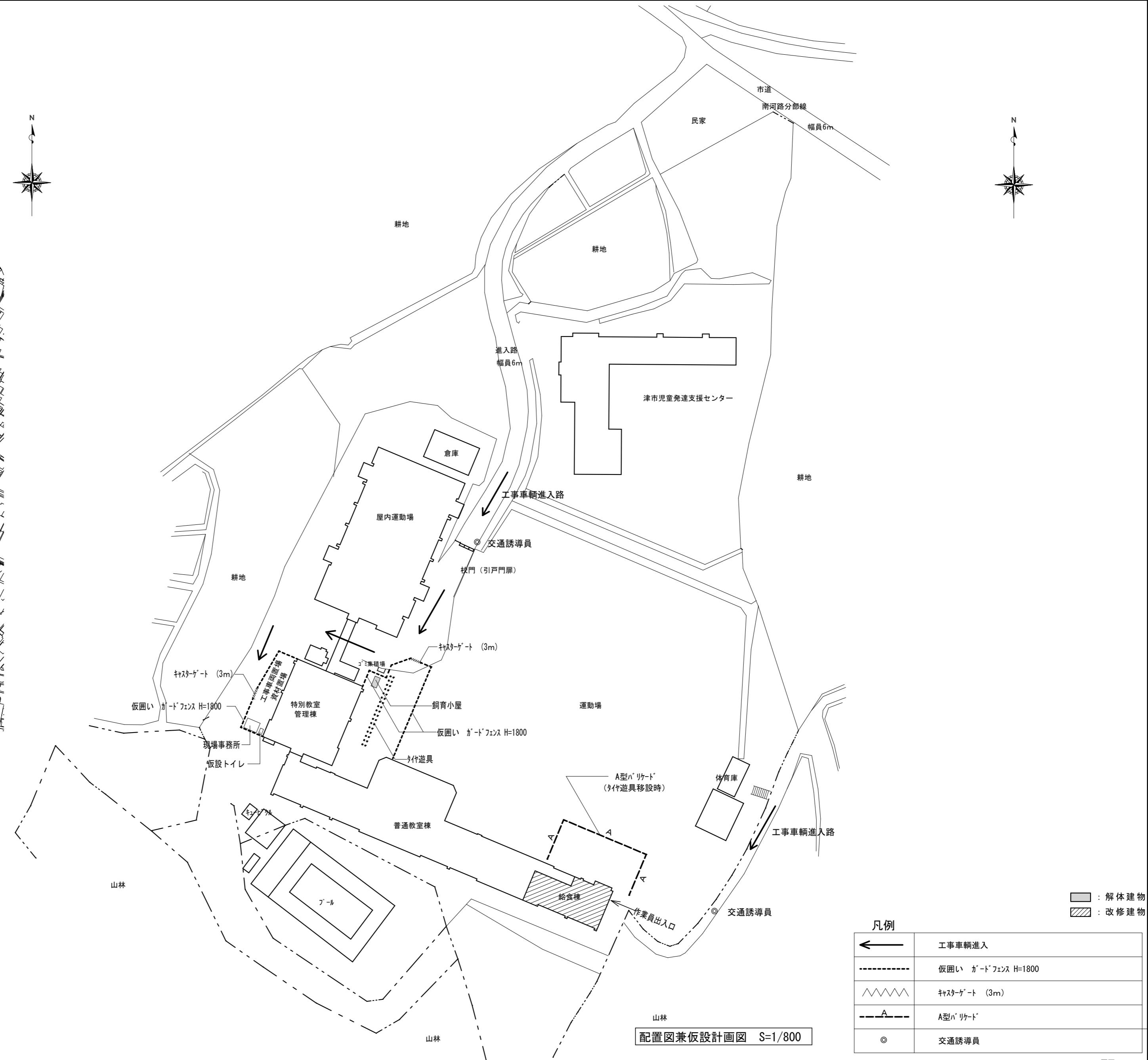
<p>③ 防 水 改 修 工 事</p> <p>1 アスファルト防水 (3.1.4) (3.3.3) (表3.3.3)～ (表3.3.10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ P1B</td> <td>・ B-1 ・ B-2 ・ B-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ P1E</td> <td>・ E-1 ・ E-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ P2E</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ()</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ()</p> <p>2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2)</p> <p>改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ()</p> <p>粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ()</p> <p>3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (3.5.2)</p> <p>ルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.5.1)及び(表3.5.2)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.5.1)及び(表3.5.2)による ()</p> <p>絶縁用シート 発泡ポリエチレンシート 固定金具の材質及び寸法形状 図示()</p> <p>断熱工法の断熱材 (POI, S4S1, S3S1, MASI) 材質、厚さ () 図示()</p> <p>(3.5.3) (表3.5.1)～ (表3.5.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>種別</th> <th>仕上塗料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ S3S</td> <td>・ S-F1(S1-F1)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ S3S1</td> <td>・ S-F2(S1-F2)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>脱気装置 設ける (設置数量 図示(図面番号:)、材質 ()) 設けない</p> <p>既存防水層下地がPCコンクリート部材の場合 目地処理 図示(図面番号:) 増張り 図示(図面番号:) 保護層の施工 図示(図面番号:)</p> <p>4 塗膜防水 (3.6.3) (表3.6.1) (3.6.3) (a)</p> <p>工法 種別 施工箇所 仕上塗料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>POX</th> <th>X-1 X-2</th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>L4X</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </thead> </table> <p>脱気装置 設ける (設置数量 図示(図面番号:)、材質 ()) 設けない</p> <p>(3.6.3) (b)</p> <p>工法 種別 施工箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>P1Y</th> <th>Y-2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>P2Y</td> <td></td> <td></td> </tr> </thead> </table> <p>保護層 図示(図面番号:)</p> <p>(M4AS, M4AS1, M4C, M4D) 行う 行わない (L4X) 行う 行わない</p> <p>5 既存防水層表面の仕上塗装の除去 (3.2.6) (c) (2) (3.2.6) (c) (6)</p> <p>6 シーリング (3.7.2) (表3.7.1)</p> <p>材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材種</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SR-1</td> <td>シリコーン系</td> <td>建具ガラス部</td> </tr> <tr> <td>SR-2</td> <td>シリコーン系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MS-2</td> <td>変成シリコーン系</td> <td>新設間仕切壁取合部・建具周囲・7m庇</td> </tr> <tr> <td>PS-2</td> <td>ポリサルファイト系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PU-2</td> <td>ポリウレタン系</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(3.7.4～7)</p> <p>工法 シーリング充填工法 シーリング再充填工法 拡幅シーリング再充填工法 ブリッジ工法 (ボンドプレーカー幅 mm、エッジング材幅 mm)</p> <p>(3.7.8)</p> <p>シーリング材の試験 簡単接着性試験 引張接着性試験 ○ 行わない</p> <p>7 とい (3.8.2) (表3.8.1)</p> <p>材種 硬質ポリ塩化ビニル管(カラー) 配管用鋼管(白管) 工法 図示(図面番号:)</p> <p>8 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (c) (表3.9.1)</p> <p>部材の種類 押出し250形 押出し300形 押出し350形 板材折曲げ形(本体幅 mm、板厚 2.0mm ())</p> <p>固定金具の間隔 (mm) 固定方法 ()</p> <p>表面処理 ()</p> <p>工法 既存笠木等の撤去 図示(図面番号:) 下地補修の工法 図示(図面番号:) 板材折曲げ形の笠木の取付方法 図示(図面番号:) 笠木固定金具の工法 図示(図面番号:)</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したか固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。</p>	工法	種別	施工箇所	・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3		・ P1E	・ E-1 ・ E-2		・ P2E			工法	種別	種別	仕上塗料	・ S3S	・ S-F1(S1-F1)			・ S3S1	・ S-F2(S1-F2)			POX	X-1 X-2			L4X				P1Y	Y-2		P2Y			種類	材種	施工箇所	SR-1	シリコーン系	建具ガラス部	SR-2	シリコーン系		MS-2	変成シリコーン系	新設間仕切壁取合部・建具周囲・7m庇	PS-2	ポリサルファイト系		PU-2	ポリウレタン系	
工法	種別	施工箇所																																																						
・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3																																																							
・ P1E	・ E-1 ・ E-2																																																							
・ P2E																																																								
工法	種別	種別	仕上塗料																																																					
・ S3S	・ S-F1(S1-F1)																																																							
・ S3S1	・ S-F2(S1-F2)																																																							
POX	X-1 X-2																																																							
L4X																																																								
P1Y	Y-2																																																							
P2Y																																																								
種類	材種	施工箇所																																																						
SR-1	シリコーン系	建具ガラス部																																																						
SR-2	シリコーン系																																																							
MS-2	変成シリコーン系	新設間仕切壁取合部・建具周囲・7m庇																																																						
PS-2	ポリサルファイト系																																																							
PU-2	ポリウレタン系																																																							
<p>③ 防 水 改 修 工 事</p> <p>1 アスファルト防水 (3.1.4) (3.3.3) (表3.3.3)～ (表3.3.10)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ P1B</td> <td>・ B-1 ・ B-2 ・ B-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ P1E</td> <td>・ E-1 ・ E-2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ P2E</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ()</p> <p>部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.3.3)～(表3.3.9)による ()</p> <p>2 改質アスファルトシート防水 (3.4.2)</p> <p>改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ()</p> <p>粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.4.1)～(表3.4.3)による ()</p> <p>3 合成高分子系ルーフィングシート防水 (3.5.2)</p> <p>ルーフィングシート 種類 改修標準仕様書(表3.5.1)及び(表3.5.2)による () 厚さ 改修標準仕様書(表3.5.1)及び(表3.5.2)による ()</p> <p>絶縁用シート 発泡ポリエチレンシート 固定金具の材質及び寸法形状 図示()</p> <p>断熱工法の断熱材 (POI, S4S1, S3S1, MASI) 材質、厚さ () 図示()</p> <p>(3.5.3) (表3.5.1)～ (表3.5.3)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>種別</th> <th>仕上塗料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ S3S</td> <td>・ S-F1(S1-F1)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ S3S1</td> <td>・ S-F2(S1-F2)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>脱気装置 設ける (設置数量 図示(図面番号:)、材質 ()) 設けない</p> <p>既存防水層下地がPCコンクリート部材の場合 目地処理 図示(図面番号:) 増張り 図示(図面番号:) 保護層の施工 図示(図面番号:)</p> <p>4 塗膜防水 (3.6.3) (表3.6.1) (3.6.3) (a)</p> <p>工法 種別 施工箇所 仕上塗料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>POX</th> <th>X-1 X-2</th> <th></th> <th></th> </tr> <tr> <td>L4X</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </thead> </table> <p>脱気装置 設ける (設置数量 図示(図面番号:)、材質 ()) 設けない</p> <p>(3.6.3) (b)</p> <p>工法 種別 施工箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>P1Y</th> <th>Y-2</th> <th></th> </tr> <tr> <td>P2Y</td> <td></td> <td></td> </tr> </thead> </table> <p>保護層 図示(図面番号:)</p> <p>(M4AS, M4AS1, M4C, M4D) 行う 行わない (L4X) 行う 行わない</p> <p>6 シーリング (3.7.2) (表3.7.1)</p> <p>材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材種</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SR-1</td> <td>シリコーン系</td> <td>建具ガラス部</td> </tr> <tr> <td>SR-2</td> <td>シリコーン系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>MS-2</td> <td>変成シリコーン系</td> <td>新設間仕切壁取合部・建具周囲・7m庇</td> </tr> <tr> <td>PS-2</td> <td>ポリサルファイト系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PU-2</td> <td>ポリウレタン系</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(3.7.4～7)</p> <p>工法 シーリング充填工法 シーリング再充填工法 拡幅シーリング再充填工法 ブリッジ工法 (ボンドプレーカー幅 mm、エッジング材幅 mm)</p> <p>(3.7.8)</p> <p>シーリング材の試験 簡単接着性試験 引張接着性試験 ○ 行わない</p> <p>7 とい (3.8.2) (表3.8.1)</p> <p>材種 硬質ポリ塩化ビニル管(カラー) 配管用鋼管(白管) 工法 図示(図面番号:)</p> <p>8 アルミニウム製笠木 (3.9.2) (c) (表3.9.1)</p> <p>部材の種類 押出し250形 押出し300形 押出し350形 板材折曲げ形(本体幅 mm、板厚 2.0mm ())</p> <p>固定金具の間隔 (mm) 固定方法 ()</p> <p>表面処理 ()</p> <p>工法 既存笠木等の撤去 図示(図面番号:) 下地補修の工法 図示(図面番号:) 板材折曲げ形の笠木の取付方法 図示(図面番号:) 笠木固定金具の工法 図示(図面番号:)</p> <p>建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応したか固定金具の間隔固定方法等は施工計画書として提出する。</p>	工法	種別	施工箇所	・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3		・ P1E	・ E-1 ・ E-2		・ P2E			工法	種別	種別	仕上塗料	・ S3S	・ S-F1(S1-F1)			・ S3S1	・ S-F2(S1-F2)			POX	X-1 X-2			L4X				P1Y	Y-2		P2Y			種類	材種	施工箇所	SR-1	シリコーン系	建具ガラス部	SR-2	シリコーン系		MS-2	変成シリコーン系	新設間仕切壁取合部・建具周囲・7m庇	PS-2	ポリサルファイト系		PU-2	ポリウレタン系	
工法	種別	施工箇所																																																						
・ P1B	・ B-1 ・ B-2 ・ B-3																																																							
・ P1E	・ E-1 ・ E-2																																																							
・ P2E																																																								
工法	種別	種別	仕上塗料																																																					
・ S3S	・ S-F1(S1-F1)																																																							
・ S3S1	・ S-F2(S1-F2)																																																							
POX	X-1 X-2																																																							
L4X																																																								
P1Y	Y-2																																																							
P2Y																																																								
種類	材種	施工箇所																																																						
SR-1	シリコーン系	建具ガラス部																																																						
SR-2	シリコーン系																																																							
MS-2	変成シリコーン系	新設間仕切壁取合部・建具周囲・7m庇																																																						
PS-2	ポリサルファイト系																																																							
PU-2	ポリウレタン系																																																							
<p>4 外壁改修工事</p> <p>1 施工数量調査</p> <ul style="list-style-type: none"> 行う 行わない 調査範囲 全面 () 調査項目 ひび割れ部 (幅0.2mm) 0.2mm～1.0mm 1.0mm以上 はがれ及びく落部分 浮き部 調査方法 打診、目視及びクラックスケール等 (足場 ゴンドラ) 報告書 2部 (立面図等に記載、必要に応じて写真添付) <p>2 改修工法の種類 (4.1.4) (4.1.5)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>外壁</th> <th>種類</th> <th>改修工法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">コンクリート打放し仕上げ外壁</td> <td>ひび割れ部</td> <td>樹脂注入法 Uカットシール材充填工法 シール工法</td> </tr> <tr> <td>欠損部</td> <td>充填工法</td> </tr> <tr> <td>ひび割れ部</td> <td>樹脂注入法 Uカットシール材充填工法 シール工法</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">モルタル塗り仕上げ外壁</td> <td>欠損部</td> <td>モルタル塗替え工法</td</td></tr></tbody></table>	外壁	種類	改修工法	コンクリート打放し仕上げ外壁	ひび割れ部	樹脂注入法 Uカットシール材充填工法 シール工法	欠損部	充填工法	ひび割れ部	樹脂注入法 Uカットシール材充填工法 シール工法	モルタル塗り仕上げ外壁	欠損部	モルタル塗替え工法</td																																											
外壁	種類	改修工法																																																						
コンクリート打放し仕上げ外壁	ひび割れ部	樹脂注入法 Uカットシール材充填工法 シール工法																																																						
	欠損部	充填工法																																																						
	ひび割れ部	樹脂注入法 Uカットシール材充填工法 シール工法																																																						
モルタル塗り仕上げ外壁	欠損部	モルタル塗替え工法</td																																																						

⑤ 建 具 改 修 工 事	<p>① 8 板ガラス (5.13.2) (a) (5.13.4)</p> <p>① 9 ガラス留め材 (5.13.2) (b)</p> <p>② 0 ガラス溝の寸法、形状等 (5.13.3)</p> <p>2 1 ガラスブロック積み (5.13.5)</p>	<p>○ 図示 : A-16)</p> <p>○ シーリング ガスケット ()</p> <p>・ 図示 (図面番号 :) ○ 改修標準仕様書 (表5.13.1) による</p> <p>ガラスブロック 表面形状、寸法、厚さ ・ 図示 (図面番号 :) 金属枠、補強材 ・ 図示 (図面番号 :)</p> <p>化粧カバー ・ 図示 (図面番号 :) 工法 ・ 図示 (図面番号 :) 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法を施行計画書として提出する。</p>	(6.5.2) (e)	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">○ 床張り用合板等</th> </tr> <tr> <th>部材名称</th><th>樹種名</th><th>接着の程度</th><th>等級</th><th>板面の品質</th><th>防虫処理等</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐水用合板</td><td>ラワン</td><td>1類</td><td>2級</td><td>C-D</td><td>12</td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	○ 床張り用合板等						部材名称	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理等	耐水用合板	ラワン	1類	2級	C-D	12																			(6.5.5) (a)	<p>・ 防腐、防蟻処理 適用部位 図示 (図面番号 :) 保存処理性能区分 () 薬剤の塗布等の処理方法 () ボード耐料接着剤への防腐・防蟻処理 ()</p> <p>○ 鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組 木材 (2) 工法 表6.5.8 (その1) 転ばし大引</p>	<p>8 カーペット敷き (6.9.3) (a) (表6.9.1)</p> <p>・ 織じゅうたん 種別 バイルの形状 帯電性 品質の程度 ・ A種 カットバイル 人体帯電圧 3KV以下 ・ B種 ループバイル ・ C種 カット、ループ併用</p> <p>品質の程度欄に記載した商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。(以下同様)</p>																																							
○ 床張り用合板等																																																																																		
部材名称	樹種名	接着の程度	等級	板面の品質	防虫処理等																																																																													
耐水用合板	ラワン	1類	2級	C-D	12																																																																													
⑥ 内 装 改 修 工 事	<p>1 一般事項 (6.1.3) (b)</p> <p>(6.1.3) (c)</p> <p>(6.1.3) (f)</p> <p>② 既存床撤去、下地補修 (6.2.2) (a) (1) (6.2.2) (a) (2)</p> <p>(6.2.2) (a) (5)</p> <p>(6.2.2) (c)</p> <p>③ 既存壁撤去、下地補修 (6.3.2)</p> <p>④ 木下地等 (6.5.1) (c) (表6.5.1) (6.5.2) (a) (2) (表6.5.2)</p> <p>(6.5.2) (b) (1)</p> <p>(6.5.2) (b) (2) (6.5.2) (b) (3) (表6.5.3)</p> <p>(6.5.2) (b) (3)</p> <p>(6.5.2) (c) (i)</p> <p>(6.5.2) (c) (ii)</p> <p>(6.5.2) (d) (i)</p> <p>(6.5.2) (d) (ii)</p>	<p>既存間仕切壁の撤去に伴う取り合い部分の改修範囲</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>改修部分</th><th>改修範囲</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 天井</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td></tr> <tr> <td>・ 壁</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td></tr> <tr> <td>・ 床</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td></tr> </tbody> </table> <p>天井内の既存壁の撤去に伴う取り合い部の天井改修範囲</p> <p>・ 図示 ()</p> <p>天井の撤去に伴う取り合い部の壁面改修</p> <p>・ 図示 ()</p> <p>既存床仕上げ材の除去等</p> <p>浮き、欠損部等による下地モルタルの撤去</p> <p>○ 行う ・ 行わない</p> <p>合成樹脂塗り床材の除去等</p> <p>・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法</p> <p>床組の撤去</p> <p>・ (i) ・ (ii)</p> <p>改修後の床の清掃範囲</p> <p>○ 施工範囲及び施工によって汚れが生じた範囲</p> <p>既存間仕切壁の撤去に伴う他の構造体の補修工法</p> <p>○ (もみれ塗り)</p> <p>表面仕上げ A種 ○ B種 C種</p> <p>木材の含水率 (工事現場搬入時、質量比)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部材名称</th><th>種別</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下地材</td><td>○ A種 B種</td></tr> <tr> <td>造作材</td><td>・ A種 B種</td></tr> </tbody> </table> <p>製材</p> <p>「製材の日本農林規格」による製材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th><th>樹種・寸法・形状</th><th>等級</th><th>含水率</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>下地用 針葉樹製材</td><td>・ 図示</td><td>・ ()</td><td>・ ()</td></tr> <tr> <td>造作用 針葉樹製材</td><td>・ 図示</td><td>・ ()</td><td>・ ()</td></tr> <tr> <td>広葉樹製材</td><td>・ 図示</td><td>・ ()</td><td>・ ()</td></tr> </tbody> </table> <p>「製材の日本農林規格」以外の製材</p> <p>樹種、寸法、材面の品質、防虫処理、難燃処理及び含水率 ・ 図示 (図面番号 :)</p> <p>造作材の材面の品質 A種 ()</p> <p>樹種</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th><th>樹種</th><th>県産材</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>代用樹種の使用 禁止する 禁止しない</p> <p>造作用集成材</p> <p>「集成材の日本農林規格」による造作用集成材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th><th>樹種・寸法</th><th>見付け材面の等級</th><th>厚さ</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>造作用集成材</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td><td>・ ()</td><td></td></tr> <tr> <td>化粧ばり造作用</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td><td>・ ()</td><td></td></tr> <tr> <td>集成材</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>化粧ばり構造用 造作用集成柱</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td><td></td><td>・ ()</td></tr> </tbody> </table> <p>「集成材の日本農林規格」以外の製材</p> <p>樹種、寸法、見付け材面の品質 図示 (図面番号 :)</p> <p>含水率 15%以下 ()</p> <p>造作用单板積層材</p> <p>「单板積層材の日本農林規格」による造作用单板積層材</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th><th>厚さ</th><th>表面の品質</th><th>防虫処理</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>造作用单板積層材</td><td>・ 図示 (図面番号 :)</td><td>・ ()</td><td>・ ()</td></tr> </tbody> </table> <p>「单板積層材の日本農林規格」以外の造作用单板積層材</p> <p>厚さ、表面の品質、防虫処理 国示 (図面番号 :)</p> <p>含水率 14%以下 ()</p>											改修部分	改修範囲	・ 天井	・ 図示 (図面番号 :)	・ 壁	・ 図示 (図面番号 :)	・ 床	・ 図示 (図面番号 :)	部材名称	種別	下地材	○ A種 B種	造作材	・ A種 B種	部位	樹種・寸法・形状	等級	含水率	下地用 針葉樹製材	・ 図示	・ ()	・ ()	造作用 針葉樹製材	・ 図示	・ ()	・ ()	広葉樹製材	・ 図示	・ ()	・ ()	部位	樹種	県産材										部位	樹種・寸法	見付け材面の等級	厚さ	造作用集成材	・ 図示 (図面番号 :)	・ ()		化粧ばり造作用	・ 図示 (図面番号 :)	・ ()		集成材	・ 図示 (図面番号 :)			化粧ばり構造用 造作用集成柱	・ 図示 (図面番号 :)		・ ()	部位	厚さ	表面の品質	防虫処理	造作用单板積層材	・ 図示 (図面番号 :)	・ ()	・ ()
改修部分	改修範囲																																																																																	
・ 天井	・ 図示 (図面番号 :)																																																																																	
・ 壁	・ 図示 (図面番号 :)																																																																																	
・ 床	・ 図示 (図面番号 :)																																																																																	
部材名称	種別																																																																																	
下地材	○ A種 B種																																																																																	
造作材	・ A種 B種																																																																																	
部位	樹種・寸法・形状	等級	含水率																																																																															
下地用 針葉樹製材	・ 図示	・ ()	・ ()																																																																															
造作用 針葉樹製材	・ 図示	・ ()	・ ()																																																																															
広葉樹製材	・ 図示	・ ()	・ ()																																																																															
部位	樹種	県産材																																																																																
部位	樹種・寸法	見付け材面の等級	厚さ																																																																															
造作用集成材	・ 図示 (図面番号 :)	・ ()																																																																																
化粧ばり造作用	・ 図示 (図面番号 :)	・ ()																																																																																
集成材	・ 図示 (図面番号 :)																																																																																	
化粧ばり構造用 造作用集成柱	・ 図示 (図面番号 :)		・ ()																																																																															
部位	厚さ	表面の品質	防虫処理																																																																															
造作用单板積層材	・ 図示 (図面番号 :)	・ ()	・ ()																																																																															
	<p>(6.5.6) (a) (1) (6.5.6) (b) 表6.5.8</p> <p>(6.6.2) (表6.6.1) (6.6.3)</p> <p>(6.6.4)</p> <p>(6.6.7) (6.6.8) (a)</p> <p>(6.6.8) (b)</p> <p>(6.6.8) (c) (1)</p> <p>(6.6.8) (c) (2)</p> <p>(6.6.8) (c) (3)</p> <p>(6.6.8) (c) (4)</p> <p>(6.6.8) (e)</p> <p>(6.6.8) (a)</p> <p>(6.6.8) (b)</p>	<p>(6.5.5) (a)</p> <p>(6.5.6) (a) (1) (6.5.6) (b) 表6.5.8</p> <p>(6.6.2)</p> <p>(6.6.4)</p> <p>(6.6.7)</p> <p>(6.6.8) (a)</p> <p>(6.6.8) (b)</p> <p>(6.6.8) (c) (1)</p> <p>(6.6.8) (c) (2)</p> <p>(6.6.8) (c) (3)</p> <p>(6.6.8) (c) (4)</p> <p>(6.6.8) (e)</p> <p>(6.6.8) (a)</p> <p>(6.6.8) (b)</p>	<p>(6.9.3) (b) (表6.9.2)</p> <p>(6.9.3) (c)</p> <p>(6.9.3) (d) (表6.9.2)</p> <p>(6.9.3) (e) (6.9.3) (f)</p> <p>(6.9.4) (e)</p> <p>(6.11.4) (表6.11.2)</p> <p>(6.11.5) (表6.11.3) (表6.11.5)</p> <p>(6.11.6) (2)</p> <p>(6.12.2) (表6.12.1)</p> <p>(6.13.2) (h)</p> <p>(6.13.3) (e) (3)</p> <p>(6.13.3) (g) (1) (表6.13.5)</p> <p>(6.14.2)</p>	<p>(6.9.3) (a) (表6.9.1)</p> <p>・ タフテッドカーペット バイルの形状 バイル長 (mm) 帯電性 工法 品質の程度 ・ カットバイル ・ ループバイル ・ カット、ループ併用</p> <p>品質の程度欄に記載した商品名は、品質の程度を示すための参考商品名である。(以下同様)</p> <p>(6.9.3) (b) (表6.9.2)</p> <p>・ ニードルパンチカーペット 厚さ (mm) 帯電性 備考 ・ 人体帯電圧 3KV以下 ・ ()</p> <p>(6.9.3) (c)</p> <p>・ タイルカーペット 種類 バイルの形状 寸法 (mm) 総厚さ (mm) 品質の程度 ・ カットバイル 500×500 6.5 ・ ループバイル ・ ()</p> <p>(6.9.3) (d) (表6.9.2)</p> <p>下敷き材 第2種第2号、厚さ8mm 見切り、押え金物 適用する (材質、種類及び形状) 国示 (図面番号 :)</p> <p>(6.9.3) (e) (6.9.3) (f)</p> <p>敷き方 平場 市松敷き 模様流し 階段部分 市松敷き 模様流し</p> <p>9 合成樹脂塗床 (6.10.3) (b) (1) (表6.10.4) (6.10.3) (b) (2) (6.10.3) (c) (表6.10.5) ~ (表6.10.8)</p> <p>弹性ウレタン樹脂系塗床の仕上げ種類、工程 ・ 平滑仕上げ 防滑仕上げ つや消し仕上げ</p> <p>エボキシン樹脂系塗床の仕上げ種類 ・ 薄膜流し展げ仕上げ (平滑 防滑) 厚膜流し展げ仕上げ (平滑 防滑) ・ 樹脂モルタル仕上げ (平滑 防滑) 薄膜型塗床仕上げ (平滑 防滑)</p> <p>10 フローリング 張り 材料 種別 樹種 ・ フローリングボード (根太張用) A種 ・ 複合フローリング (根太張用) B種 ・ C種</p> <p>防湿處理 国示 (図面番号 :)</p> <p>・ 接着工法 材種 樹種 厚さ 大きさ ・ フローリングボード (直張用) ・ フローリングブロック (直張用) ・ 複合1種フローリング (直張用) A種 ・ 複合2種フローリング (直張用) B種 ・ 複合3種フローリング (直張用) C種 ・ モザイクパネル (直張用)</p> <p>緩衝材 合成樹脂発泡シート 国示 (図面番号 :)</p> <p>塗装 ・ ウレタン樹脂ワニス塗り (液形、B種) ・ オイルステイン塗りのうえワックス塗り ・ 生地のままワックス塗り ・ ()</p> <p>11 ① 畳敷き (6.12.2) (表6.12.1)</p> <p>種別 A種 B種 C種 D種 畳表替え</p> <p>12 ② せっこうボード (6.13.2) (表6.13.1)</p> <p>材種 厚さ (mm) 壁 9.5(準不燃) ○ 12.5(不燃) 天井 9.5(準不燃) 天井 12.5(不燃) ○ 9.5(準不燃) ○ 9.5(準不燃)</p> <p>○ けい酸カルシウム板 ○ タイプII.8FK ○ 6 ○ 8 ○ 6</p> <p>遮音シール材 ・ シーリング材 ジョイントコンパウンド</p> <p>合板類の張付け ・ A種 ○ B種</p> <p>せっこうボードの目地工法 ○ 継目処理 ○ 対突け 目透し</p> <p>13 壁紙張り (6.14.2)</p> <p>施工箇所 品質 防火性能 ・ 不燃 準不燃 ・ 不燃 準不燃 ・ 不燃 準不燃</p>																																																																														

⑧の 4耐 震 改 修 工 事 コ ン ク リ ー ト 工 事	<p>骨材 アルカリシリカ反応性による区分 ① A L (コンクリート中のアルカリ総量を規制) ・ A (安全と認められる骨材を使用)</p> <p>なお、A Lで規制できない場合は、Aとし、その試験は、施工着手前、工事中1回／6ヶ月かつ産地が変わった場合に信頼できる試験機関で行い、試験に用いる骨材の採取は、請負者立ち会いのもと、試験を行う者が生コン工場のストックヤードから試料を採取して試験を行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> 特殊な骨材の使用 フェロニッケルスラグ細骨材 銅スラグ細骨材 電気炉酸化スラグ骨材 再生骨材 H <p>④ 混和材料 (8.2.5)</p> <p>⑤ 混和剤 混和剤の種類 ④ 改修標準仕様書(8.2.5) (d) (1)による ・ 図示 (図面番号 :)</p> <p>・ 混和材 混和材の種類 ・ 改修標準仕様書(8.2.5) (d) (2)による ・ 図示 (図面番号 :)</p> <p>5 調合管理強度 (8.2.5) (8.8.3) (8.10.2)</p> <p>構造体強度補正値 (S) ・ 3N/mm² 6N/mm² 改修標準 (仕様書表8.2.4による)</p> <p>⑥ 型枠 (8.2.7) (8.7.8)</p> <p>材料 ① 複合板 (厚さ ② 12mm ③ ())</p> <p>スリーブ ・ 改修標準仕様書(8.2.7) (g) (2) (i)による ・ 改修標準仕様書(8.2.7) (g) (2) (ii)による ・ 材種 () 規格 ()</p> <p>7 番中コンクリート (8.10.2)</p> <p>構造体強度補正値 (S) ・ 6N/mm² ()</p> <p>8 無筋コンクリート (8.11.1)</p> <p>(現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 、溶接金網巻き工法 及び溶接閉鎖フープ巻き工法)</p> <p>9 コンクリートの打込み工法等 (8.21.8) (8.23.5)</p>	<p>⑧の 5耐 震 改 修 工 事 あと施工アンカ ー施工</p> <p>① あと施工アンカ ーの材料 (8.2.4) (表8.2.2)</p> <p>種類 ① 金属系 セットの方式 ② 本体打込み式 (③ 改良型 ④ 従来型) 径及び埋込み深さ ⑤ 図示 (図面番号 :) 引張耐力 ⑥ 図示 (図面番号 :) せん断耐力 ⑦ 図示 (図面番号 :) 接合筋の種類・径・長さ ⑧ 図示 (図面番号 :)</p> <p>② 接着系 カプセル型回転 ⑨ 打撃式 ⑩ 有機系 ⑪ 無機系 径及び埋込み深さ ⑫ 図示 (図面番号 :) 引張耐力 ⑬ 図示 (図面番号 :) せん断耐力 ⑭ 図示 (図面番号 :) アンカーフィルの種類 ⑮ 図示 (図面番号 :) アンカーフィルの新設壁内への定着長さ ⑯ 図示 (図面番号 :)</p> <p>あと施工アンカーナの性能確認試験 行う 行わない</p> <p>穿孔 埋込み配管等の探査の方法 ・ 鉄筋探知機(金属探知機)により検査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う。 ・ はり出しによる。 ・ ()</p> <p>あと施工アンカーナの施工確認試験 実施する ⑰ 実施しない 確認試験方法 ・ 改修標準仕様書(8.11.5)による ()</p> <p>確認強度 ・ ()</p> <p>場所打ちコンクリート壁の増設部に用いる既存部とのシアコネクタ 種類 ・ 金属系あと施工アンカーナの異形差筋アンカーナ ・ 接着系あと施工アンカーナの異形差筋アンカーナ 径 [mm] D10 長さ [mm] 増打壁厚-40 () 彫込み深さ [mm] 5d (d: シアコネクタの径)以上 () 間隔 [mm] 500×500</p> <p>シアコネクタとセバレーターの兼用 兼用してもよい 兼用しない ()</p> <p>⑧の 6耐 震 改 修 工 事 鉄骨工事</p> <p>1 鉄骨製作工場 (8.1.5)</p> <p>2 施工管理技術者 (8.1.5)</p> <p>3 鋼材 (8.2.8)</p> <p>4 高力ボルト (8.2.9) (8.14.2) (8.14.7)</p> <p>側日本鉄骨評価センター又は㈱全国鉄骨評価機構の「鉄骨製作工事の性能評価基準」に定めるグレードとして国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ J R M H S</p> <p>施工管理技術者(鉄骨製作管理技術者、鉄骨工事管理責任者等)の適用 ・ しない する</p> <p>材質・形状及び寸法 図示 (図面番号 :)</p> <p>高力ボルトの適用 ・ トルシア形高力ボルト 2種 (S10T) ・ JIS形高力ボルト 2種 (F10T) 溶融亜鉛めっき高力ボルト1種 (F8T相当)</p> <p>⑧の 7耐 震 改 修 工 事 グラウト工事</p> <p>1 モルタル及びグラウト工事 (8.2.6) (8.2.11) (表8.2.5) (表8.2.10)</p> <p>2 既存構造体との取合部の処理方法 (8.21.9) (8.22.7)</p> <p>構造用モルタル ・ 改修標準仕様書(8.2.6)及び(8.2.11)による。</p> <p>無収縮モルタル ・ 改修標準仕様書(8.2.11) (a)による ・ ()</p> <p>グラウト工事 ・ 改修標準仕様書(8.2.11) (b)による。</p> <p>増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処置方法 部位 处理方法 備考 ・ 増設壁の上部 ① グラウト材を注入 ② 寸法は図示による ・ () ③ () ④ ()</p> <p>⑧の 8耐 震 改 修 工 事 柱補強工事</p> <p>1 連続繊維補強工事 (8.24.1)</p> <p>2 連続繊維シート及び含浸接着樹脂等の材料 (8.23.6)</p> <p>連続繊維による補強、補修工法 ・ (財)日本建築防災協会の評価を受けた工法とする。 ・ ()</p> <p>連続繊維の材料 ・ () 工法 ・ () 引張強度(含浸硬化後) ・ () ヤング係数(含浸硬化後) ・ ()</p> <p>3 連続繊維シートの施工準備 仕上げモルタルの除去 ・ 既存構造躯体面まで除去する ・ モルタル除去は行わない ・ ()</p>	<p>8の 9耐 震 補 強 工 事 スリット新設工事</p> <p>(耐震スリット新設工事) 1 スリットの種類 (8.25.1) (8.25.2)</p> <p>付着強度試験 ・ 実施する (JIS A6909に準拠する) 試験数量 () ・ 実施しない</p> <p>耐震スリットの種類及び形状 完全スリットの形状</p> <table border="1"> <tr><td>記号</td><td>一般型</td><td>一面せん断型</td></tr> <tr><td>形状</td><td>図示 (図面番号 :)</td><td>図示 (図面番号 :)</td></tr> <tr><td>幅W (mm)</td><td>図示 (図面番号 :)</td><td>図示 (図面番号 :)</td></tr> <tr><td>既存鉄筋の処理</td><td>既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()</td><td>既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()</td></tr> </table> <p>部分スリットの形状</p> <table border="1"> <tr><td>記号</td><td>片側スリット</td><td>両面スリット</td></tr> <tr><td>形状</td><td>図示 (図面番号 :)</td><td>図示 (図面番号 :)</td></tr> <tr><td>幅W (mm)</td><td>図示 (図面番号 :)</td><td>図示 (図面番号 :)</td></tr> <tr><td>目地部の残存厚さ</td><td>壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td><td>壁厚の1/2以下かつ70mm以下</td></tr> <tr><td>tS (mm)</td><td>(</td></tr></table>	記号	一般型	一面せん断型	形状	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)	幅W (mm)	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)	既存鉄筋の処理	既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	記号	片側スリット	両面スリット	形状	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)	幅W (mm)	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)	目地部の残存厚さ	壁厚の1/2以下かつ70mm以下	壁厚の1/2以下かつ70mm以下	tS (mm)	(
記号	一般型	一面せん断型																											
形状	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)																											
幅W (mm)	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)																											
既存鉄筋の処理	既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()	既存鉄筋はつり出し ・ 切断してよい ・ ()																											
記号	片側スリット	両面スリット																											
形状	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)																											
幅W (mm)	図示 (図面番号 :)	図示 (図面番号 :)																											
目地部の残存厚さ	壁厚の1/2以下かつ70mm以下	壁厚の1/2以下かつ70mm以下																											
tS (mm)	(



付近見取図



□ 仕上表

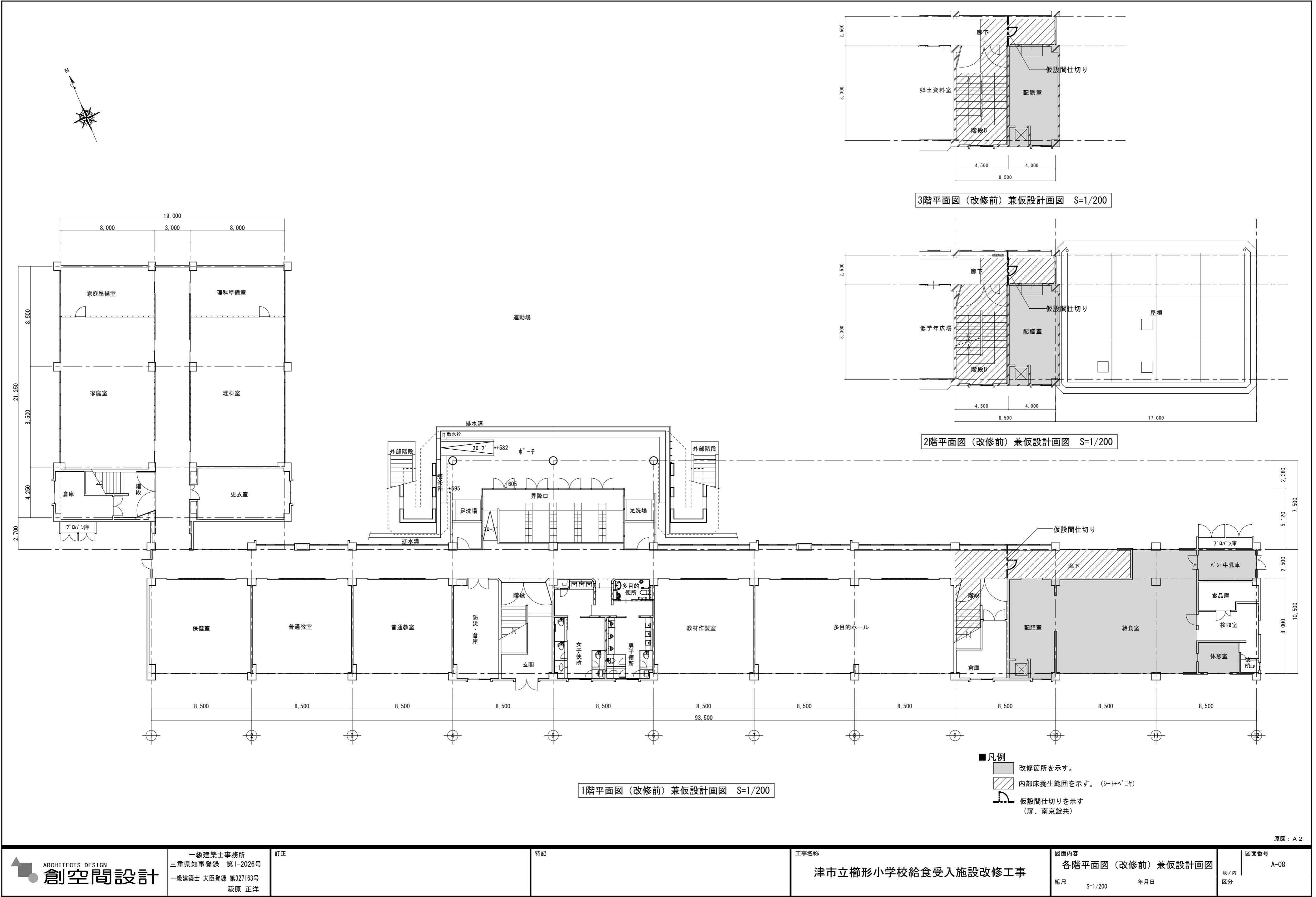
給食棟・外構

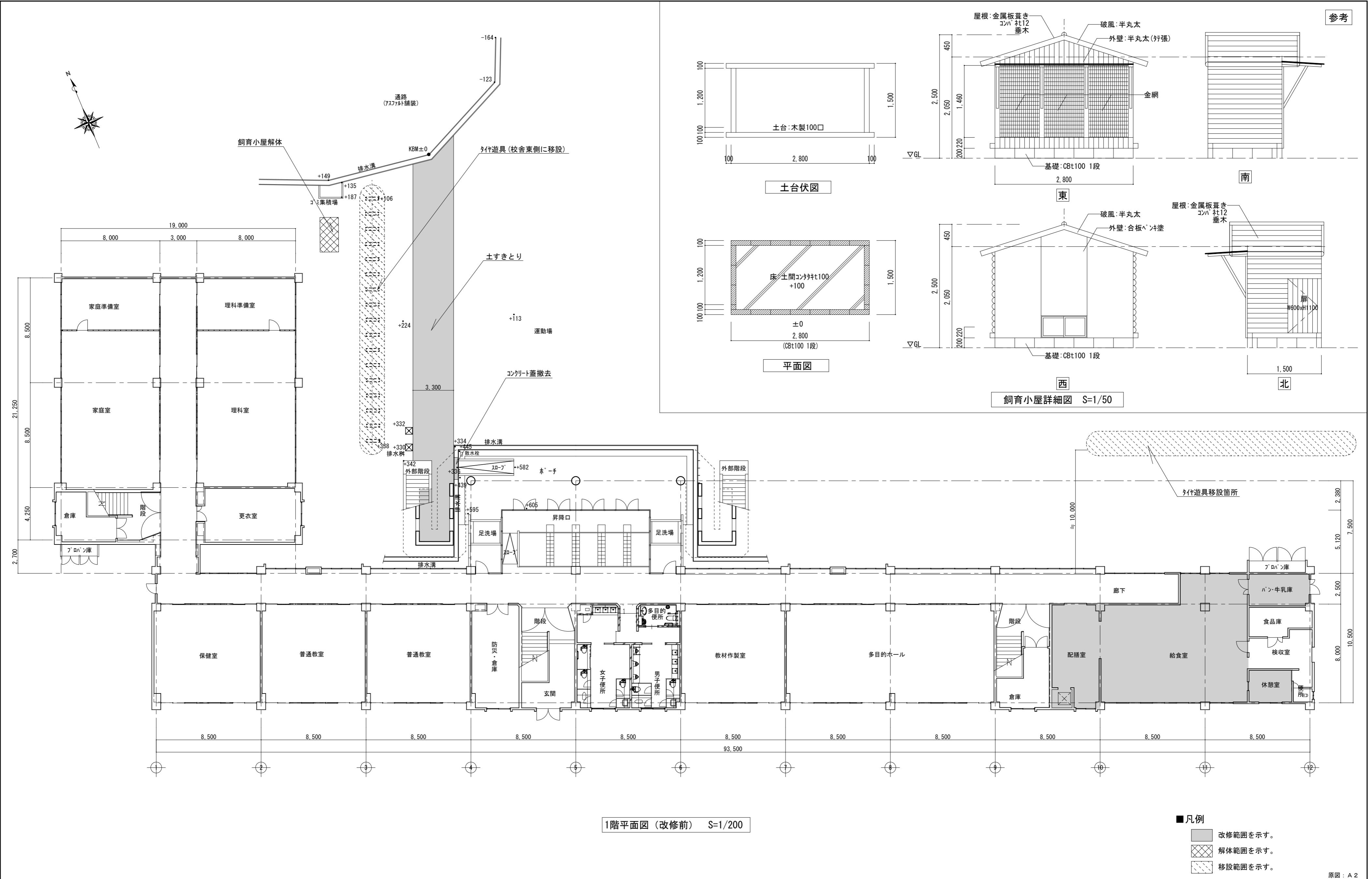
外部仕上表			
場所		仕上内容	備考
運動場	改修前	土（一部撤去） 一部排水溝蓋撤去	飼育小屋解体 外竹遊具移設
	改修後	アスファルト舗装新設 コンクリート積石150×150×600新設 細目ケーナック新設（L1800×溝幅300 溝間6mm） 土埋戻し	7m製庇新設：L=1950×D=1600 外竹遊具移設

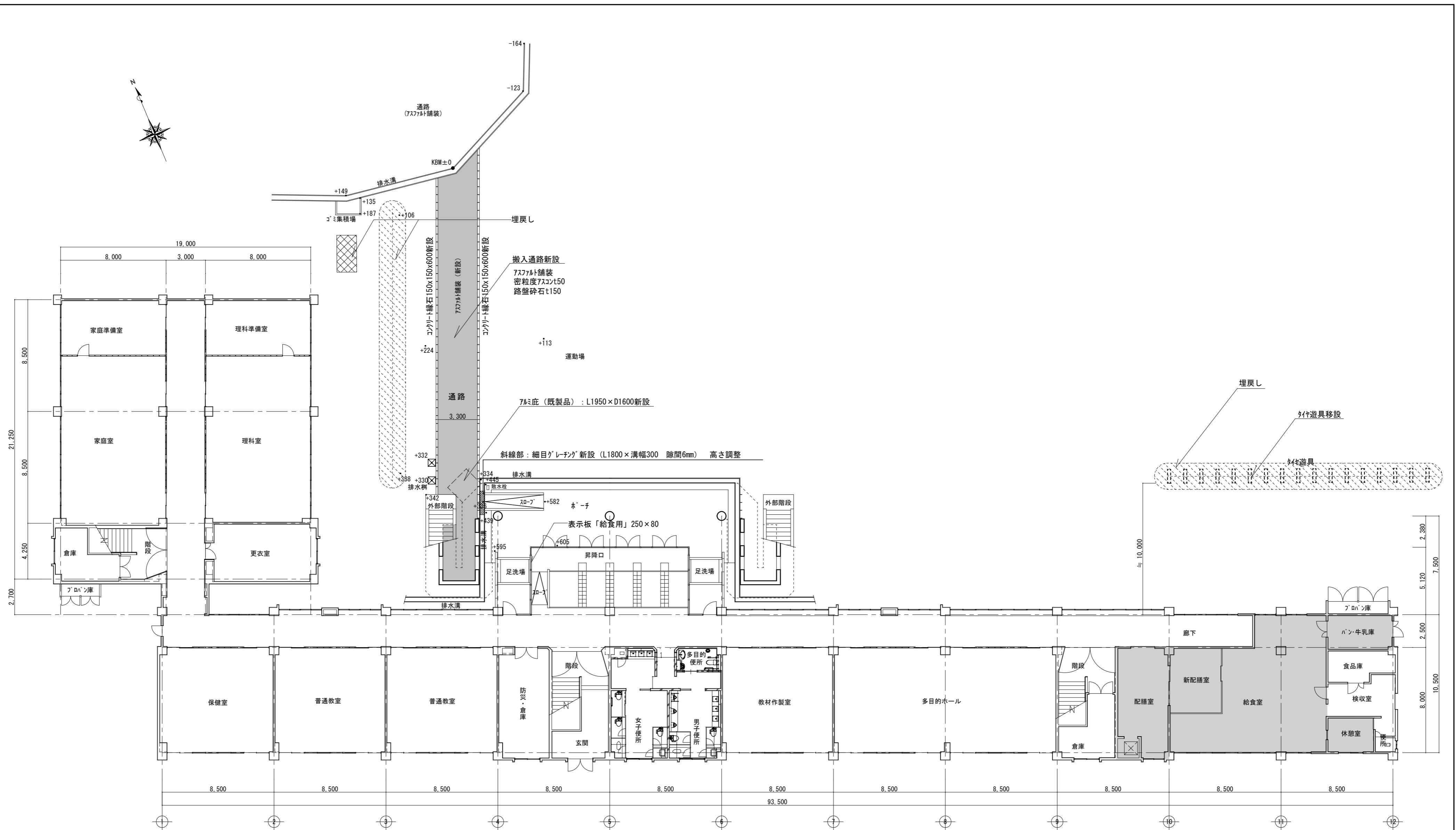
内部仕上表							
階	室名	床	巾木	壁	天井	天井高	備考
1階	給食室	改修前 モルタル金3行（一部撤去）一部土間コンクリート溝ばつり ガーランガ（撤去） 土間コンクリートt=300（一部撤去）	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	100角タイル貼（既設のまま） モルタル金3行（既設のまま）	けい酸ガルム板 VP塗（一部撤去）下地LGS19共	2,850	引違いアミサシ（撤去）
		改修後 スローブ（新設） 土間コンクリートt=220 直均し（新設） 土間コンクリートt=300 直均し（新設）	ワット巾木H=300（新設）	間仕切壁新設：（下地LGS65）けい酸ガルム板t=8.0 素地のまま	けい酸ガルム板 NAD塗（新設）塩ビ遮縁共	2,850	
	新配膳室	ビニール床t=2.5（新設）下地砂利共 土間コンクリートt=220 直均し（新設） 土間コンクリートt=300 直均し（新設）	ワット巾木H=300（新設）	間仕切壁新設：（下地LGS65）けい酸ガルム板t=6.0（二重張り）NAD塗	化粧Pbt=9.5（新設）塩ビ遮縁、下地LGS19共	2,500	面台ホースカートt=25×D120（新設） 洗面台（新設） 軽量鋼製建具（新設）
		改修前 モルタル金3行 VP塗（既設のまま） モルタル金3行（一部撤去） 土間コンクリートt=300（一部撤去）	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	モルタル金3行（一部撤去）	けい酸ガルム板 VP塗（一部撤去）	2,500	アメジスト撤去 C型鋼材撤去
	配膳室	改修前 床モルタル補修（一部新設） 土間コンクリートt=300 直均し（新設）	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	PS新設：（下地LGS65）Pbt=12.5NAD塗	けい酸ガルム板 NAD塗（新設）塩ビ遮縁共	2,500	ラインガ壁新設：（下地LGS90）、耐水合板t=12、化粧けい酸ガルム板t=6.0 小荷物専用昇降機（扉・枠） 下地調整の上SOP塗替
		改修後	—	—	—	—	
2階	休憩室	改修前 畳4.5畳（撤去）下地板（撤去） 床組（撤去） 縁甲板（撤去）	—	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	けい酸ガルム板 VP塗（既設のまま）	—	
		改修後 畳4.5畳（新設） 耐水合板t=12（新設） 転ばし床組（新設） 縁甲板t=15（新設）	—	—	—	—	
	配膳室	改修前 ビニール床t=2.0（一部撤去）	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	けい酸ガルム板 VP塗（一部撤去）	2,500	
3階	配膳室	改修前 ビニール床t=2.0（一部撤去）	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	モルタル金3行 VP塗（既設のまま）	けい酸ガルム板 VP塗（既設のまま）	2,500	
		改修後 —	下地調整の上NAD塗替 ワット巾木H=100（新設）	下地調整の上NAD塗替 PS新設：（下地LGS65）Pbt=12.5NAD塗	けい酸ガルム板 NAD塗（新設）塩ビ遮縁共	2,500	ラインガ壁新設：（下地LGS90）、耐水合板t=12、化粧けい酸ガルム板t=6.0 面台ホースカートt=25×D120（新設） 洗面台（新設） 小荷物専用昇降機（扉・枠） 下地調整の上SOP塗替
			下地調整の上NAD塗替 ワット巾木H=100（新設）	下地調整の上NAD塗替 PS新設：（下地LGS65）Pbt=12.5NAD塗	—	2,500	
備考							

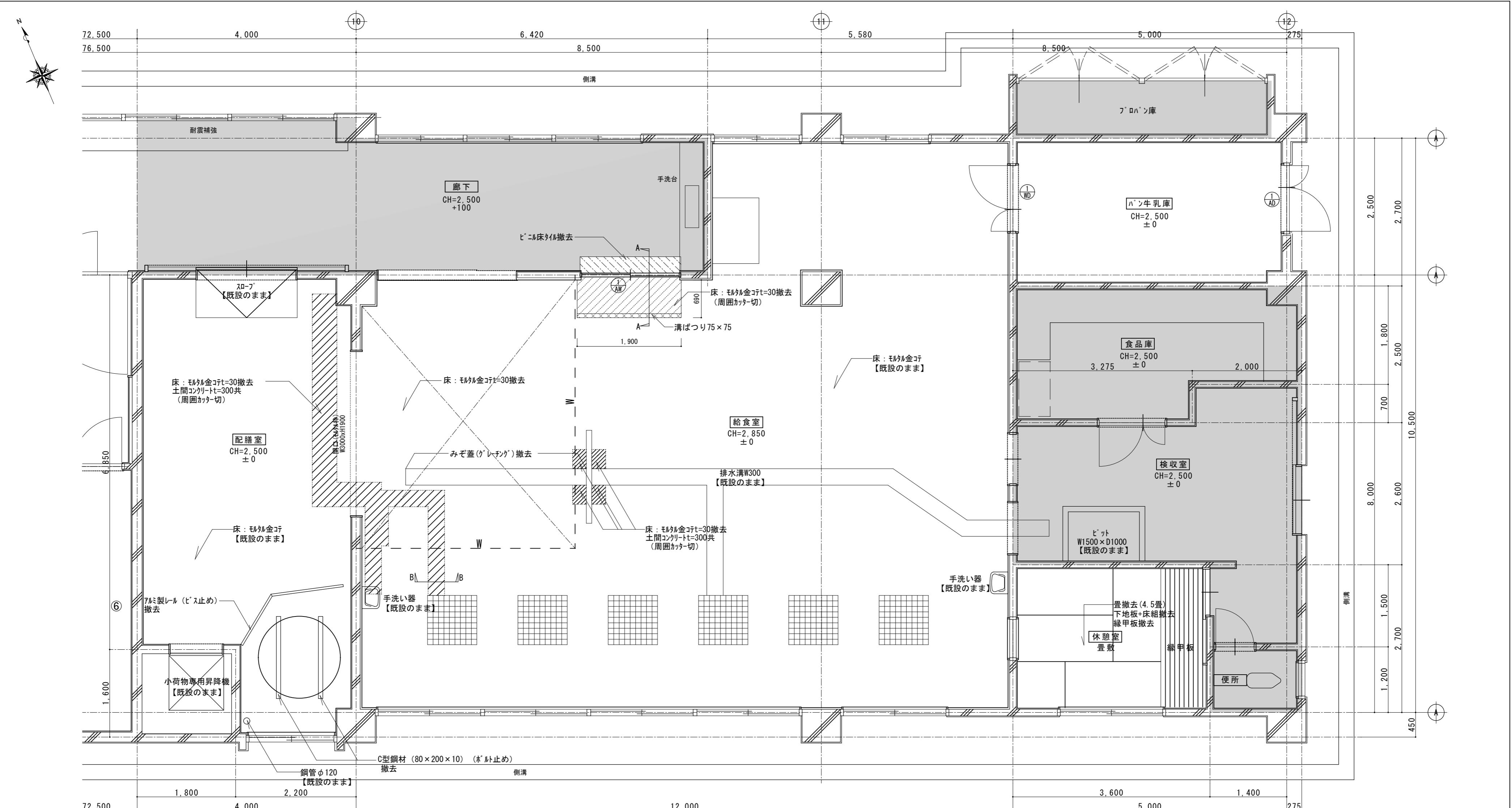
原図：A 2

ARCHITECTS DESIGN 創空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称	図面内容		図面番号 A-07 枚ノ内 区分
					仕上表	年月日	
				津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	縮尺 図示	年月日	

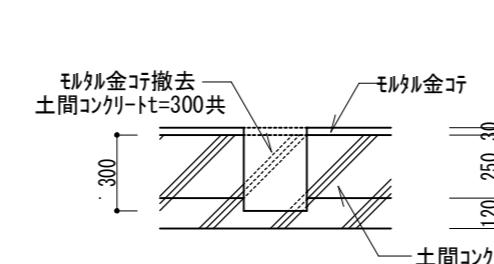
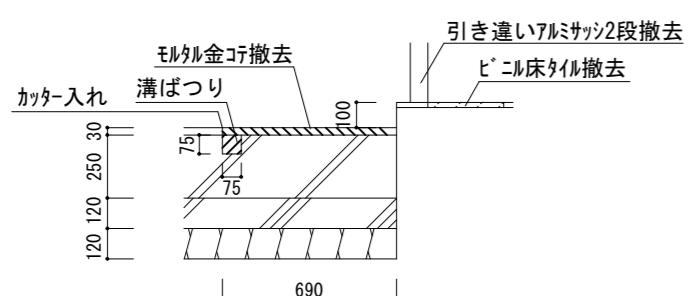






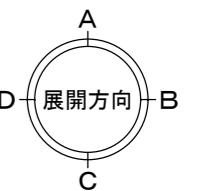


1階平面詳細図(改修前) S=1/50



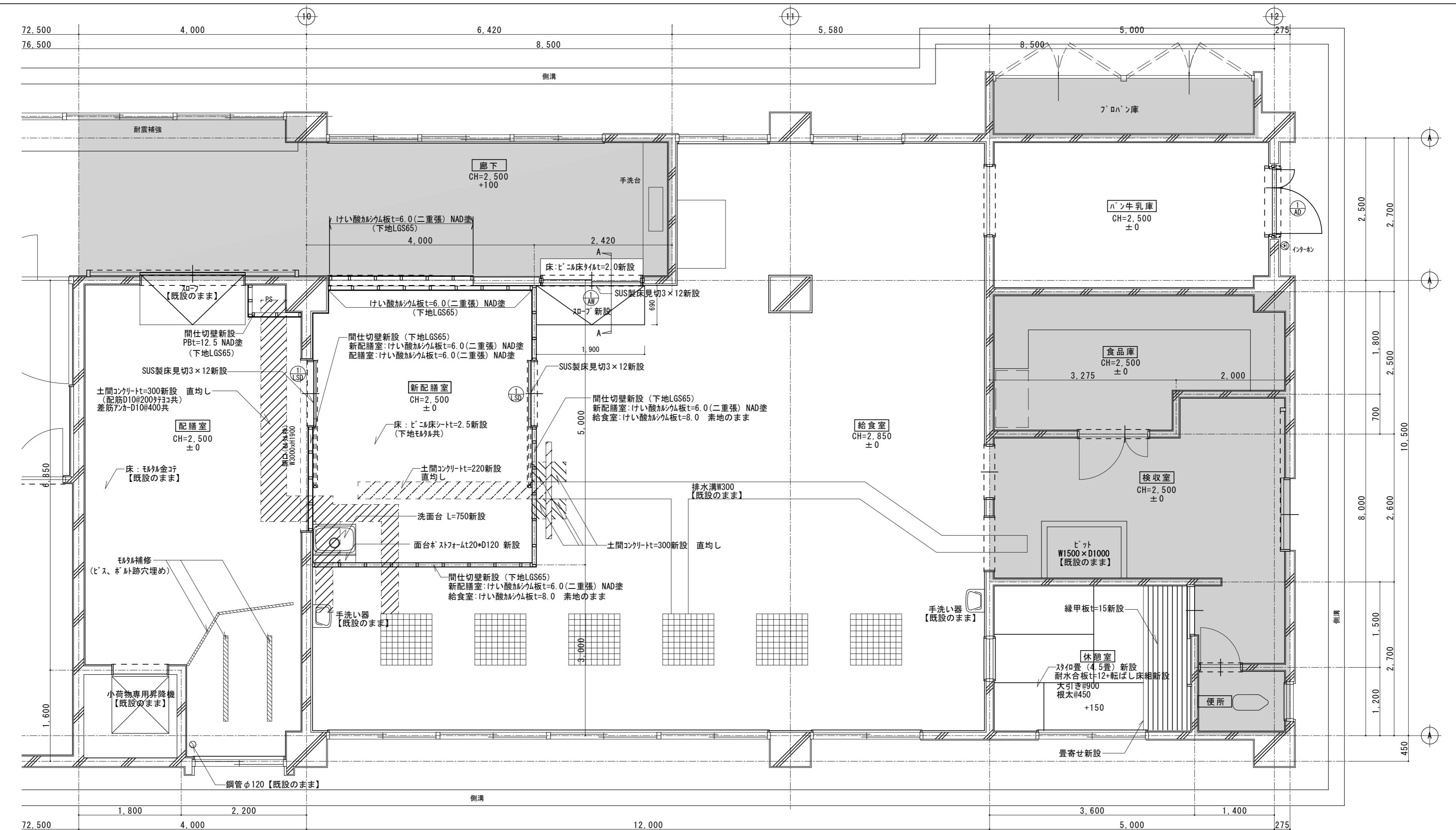
- 凡例
- モルタル金コテ=30撤去 土間コンクリート=300共 (周囲カッターカット)
 - モルタル金コテ=30撤去 (周囲カッターカット)
 - 溝ばつり 75×75
 - ピニル床タイル撤去

— W — 新設間仕切壁ライン

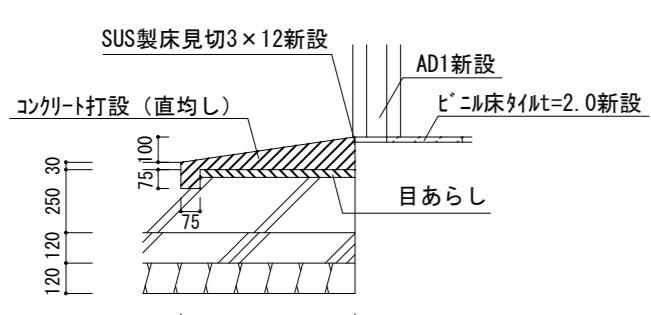


原図: A 2

ARCHITECTS DESIGN 創空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称 津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	図面内容 1階平面詳細図(改修前)	図面番号 A-11
				縮尺 S=1/30・50	年月日	枚ノ内 区分



1階平面詳細図(改修後) S=1/50

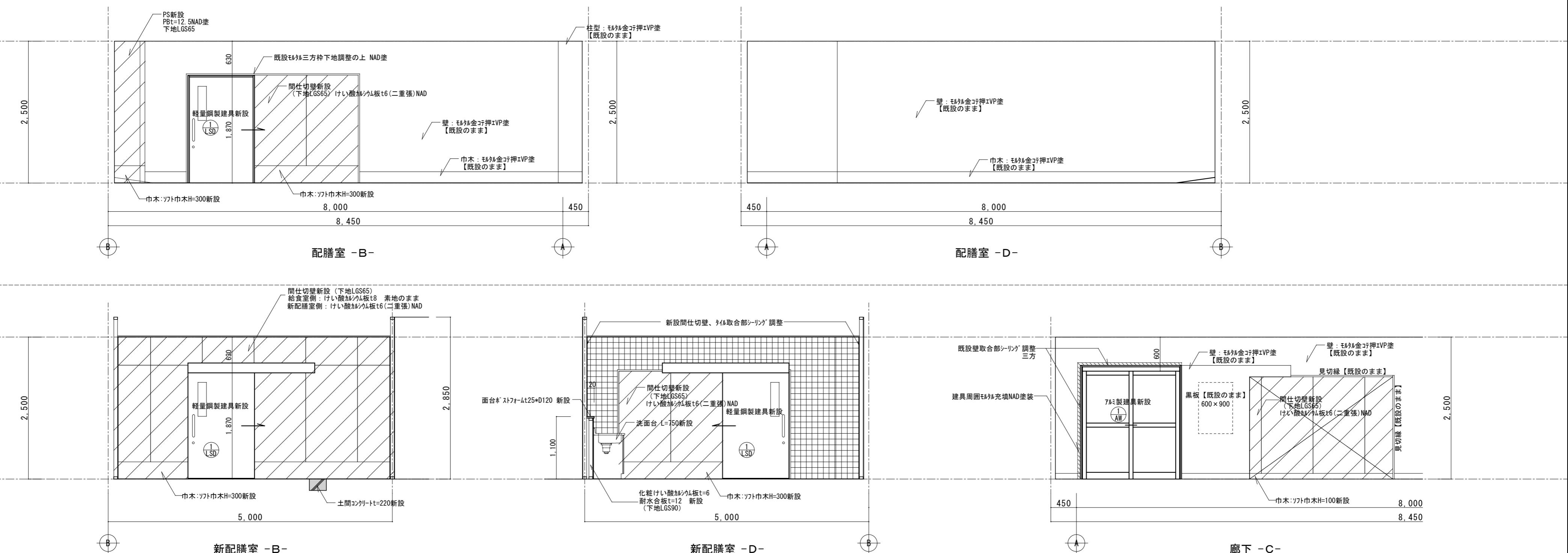
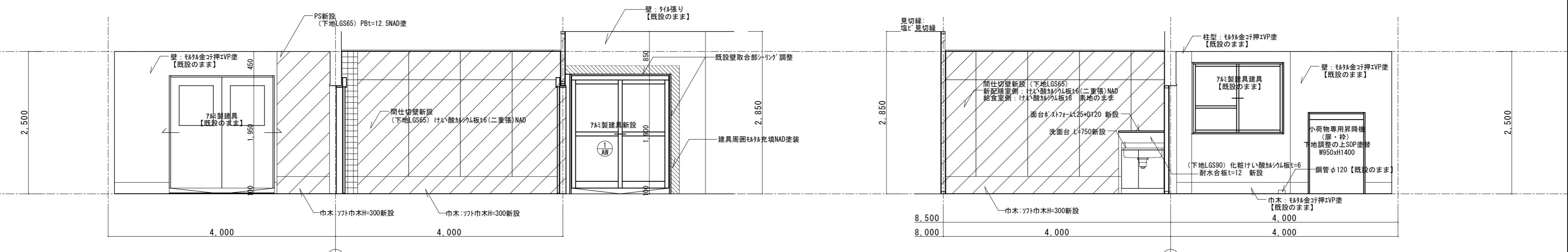


■凡例

- 土間コンクリートt=300新設 直均し (配筋D10@200等3共)
- 土間コンクリートt=300新設 直均し
- 土間コンクリートt=220新設 直均し
- モルタル補修

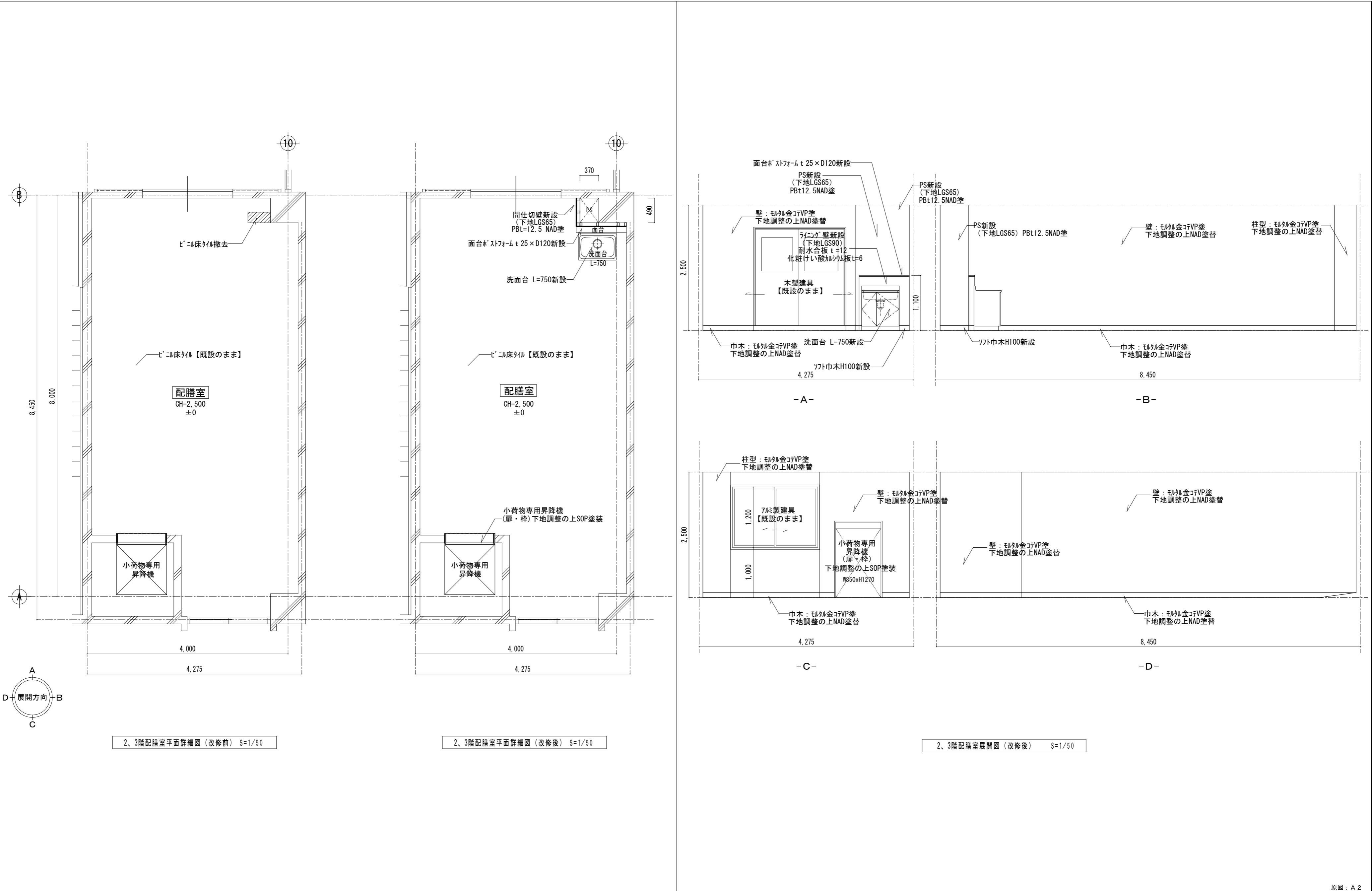
原図: A 2

一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号	訂正	特記	工事名称	図面内容	図面番号
一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋			津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	1階平面詳細図(改修後) 縮尺 S=1/30・50 年月日	A-12 枚ノ内 区分

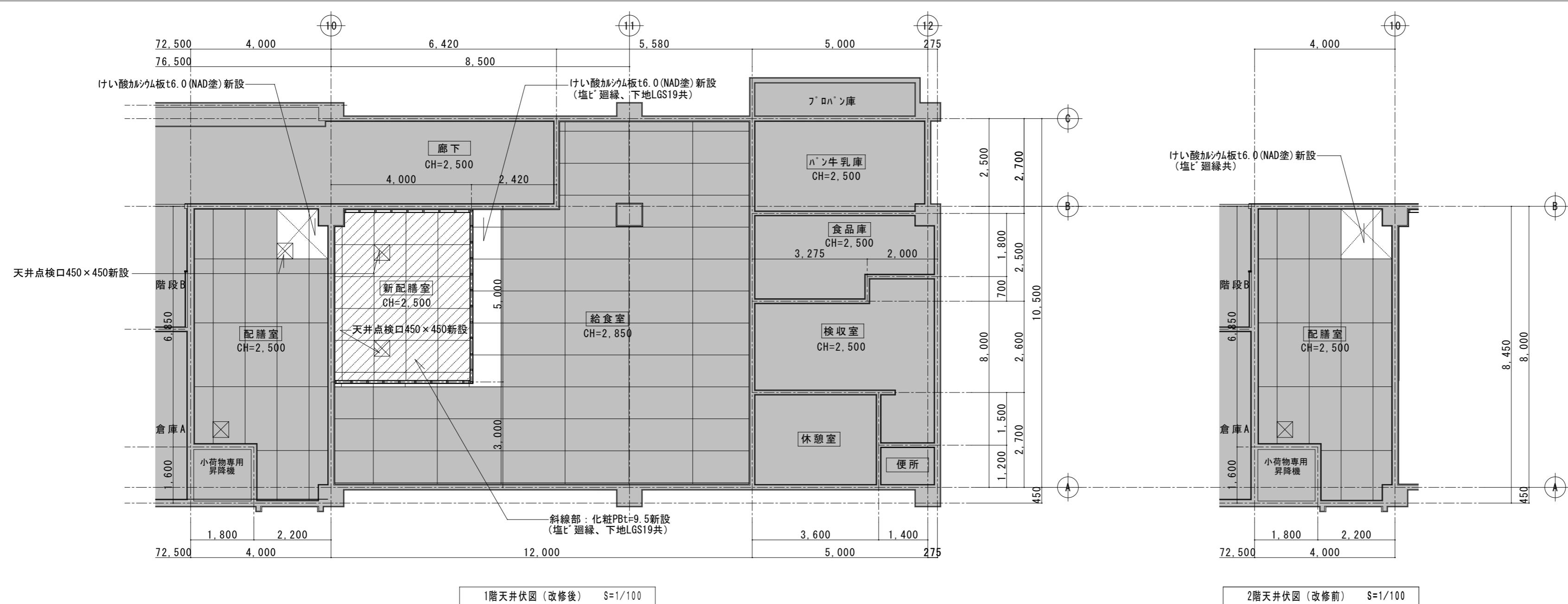
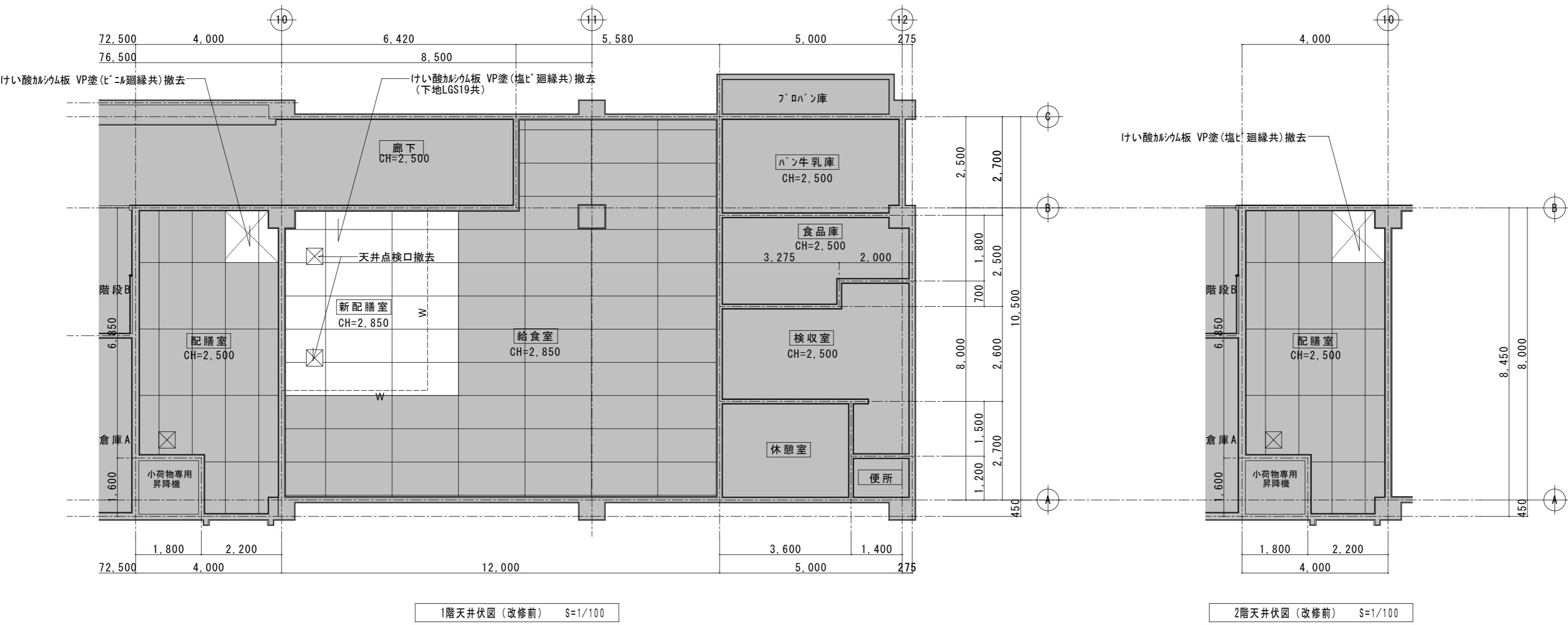


■凡例	
△	新設壁
▨	建具周囲モルタル充填 NAD塗

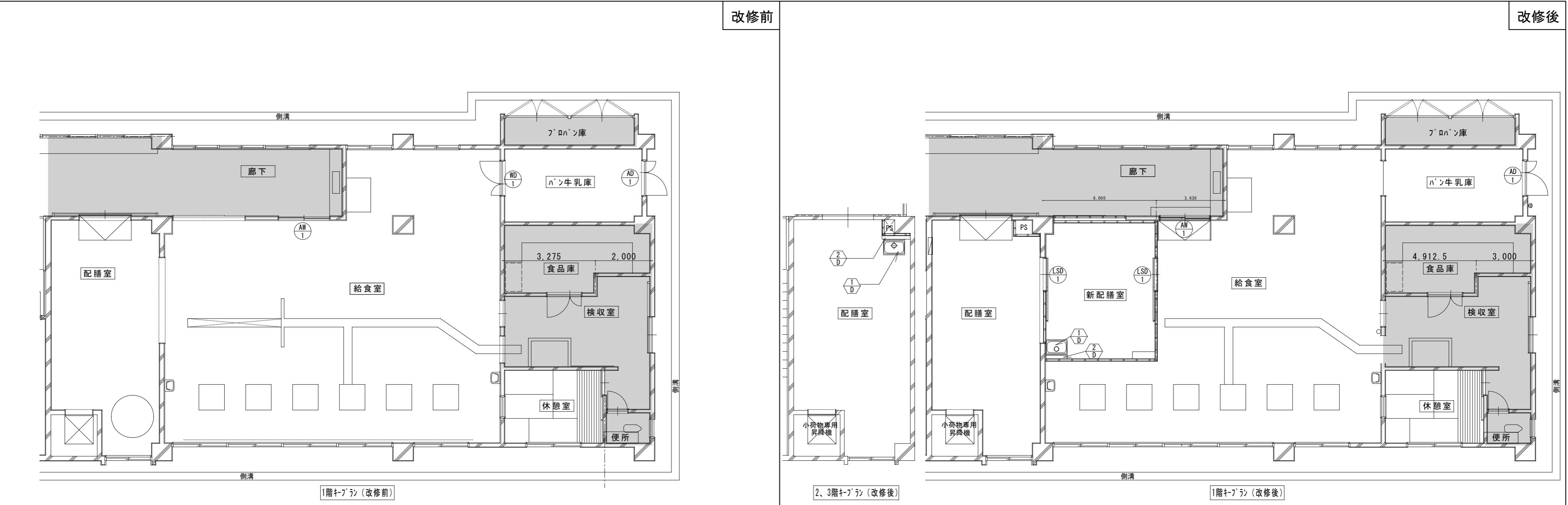
原図: A 2



ARCHITECTS DESIGN 倉空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称	図面内容	図面番号
				津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	2, 3階配膳室平面詳細図、展開図 (改修前・後)	A-14 枚ノ内 区分



一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称 津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	図面内容 1・2階天井伏図 (改修前・後)	図面番号 A-15 枚/内
				縮尺 S=1/100 年月日	区分



■建具表（改修前）

符 号・数 量	撤去	1ヶ所	撤去	1ヶ所	撤去	1ヶ所
姿 図						

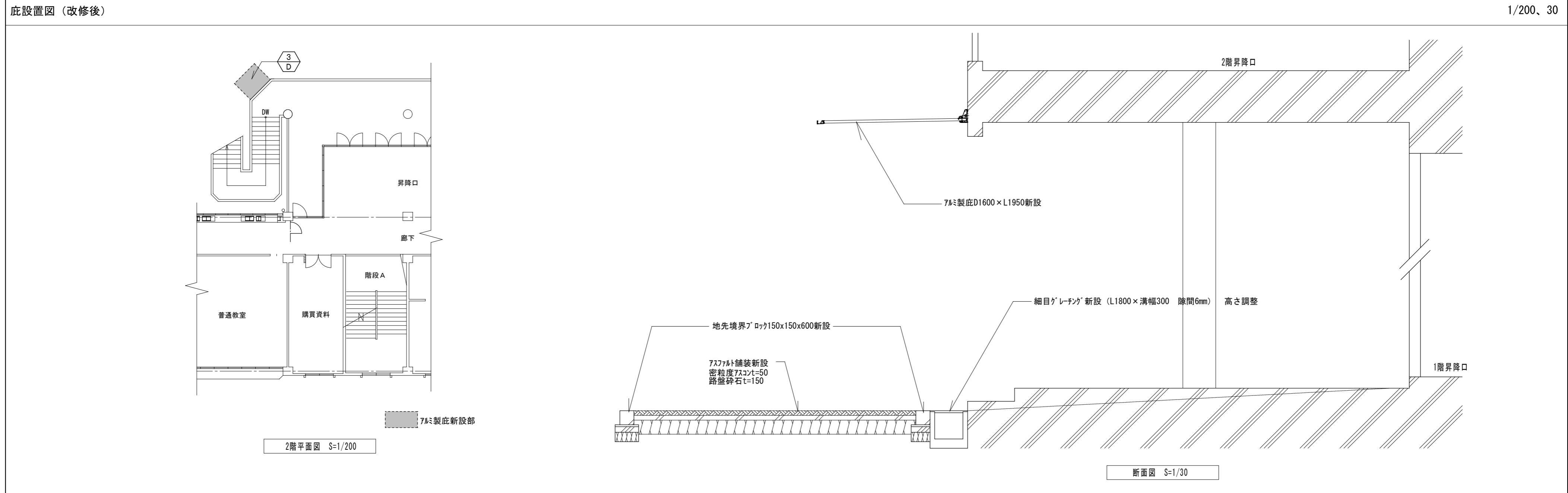
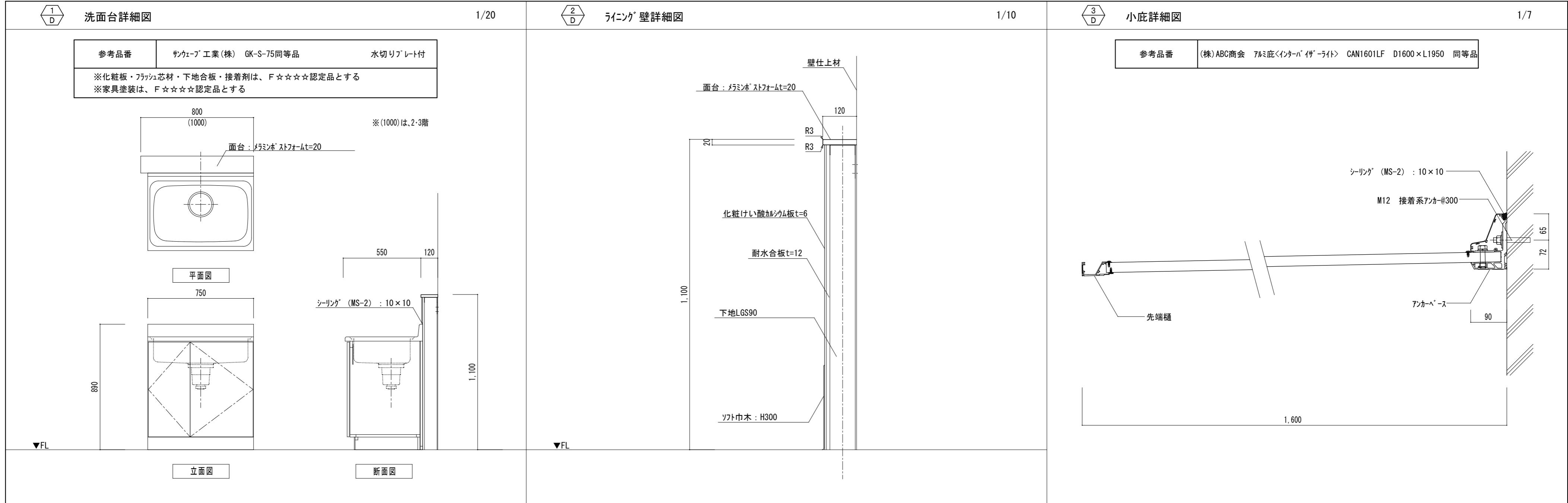
■建具表（改修後）

符 号・数 量	新設	1ヶ所	新設	2ヶ所	新設	1ヶ所
姿 図						

型 式・見 込	アルミ製引違い戸	木製親子フラッシュドア	アルミ製親子フラッシュドア	引き違いアルミハガードア	トア厚80	軽量スチールハガードア	トア厚67	アルミ製親子フラッシュドア	トア厚100
材 質	アルミ	木	アルミ	化粧鋼板(0.6)	芯材(八バーコア)	アルミ			
仕 上	アルマイト		電解着色	腰:アルミハネル	シルバー	ガーネット		シルバー	
ガ ラ ス	t=3 透明ガラス	t=3 透明ガラス		t=4 強化ガラス	トア厚67				
金 物			シリンドラ-錠、丁番	t=4 型板強化ガラス		シリンドラ-錠(キー/サムターン)、ハング-レール金物一式(手動)	トア厚67	レバ-ハンドル(シリンドラ-/内サムターン)	
備 考	網戸付			ガイトローラー 引手		ガイトローラー、引手棒(SUS製)、自閉(レール傾斜)式、明採スリット		ビポットヒンジ フラン落し 金物一式	

原図: A 2

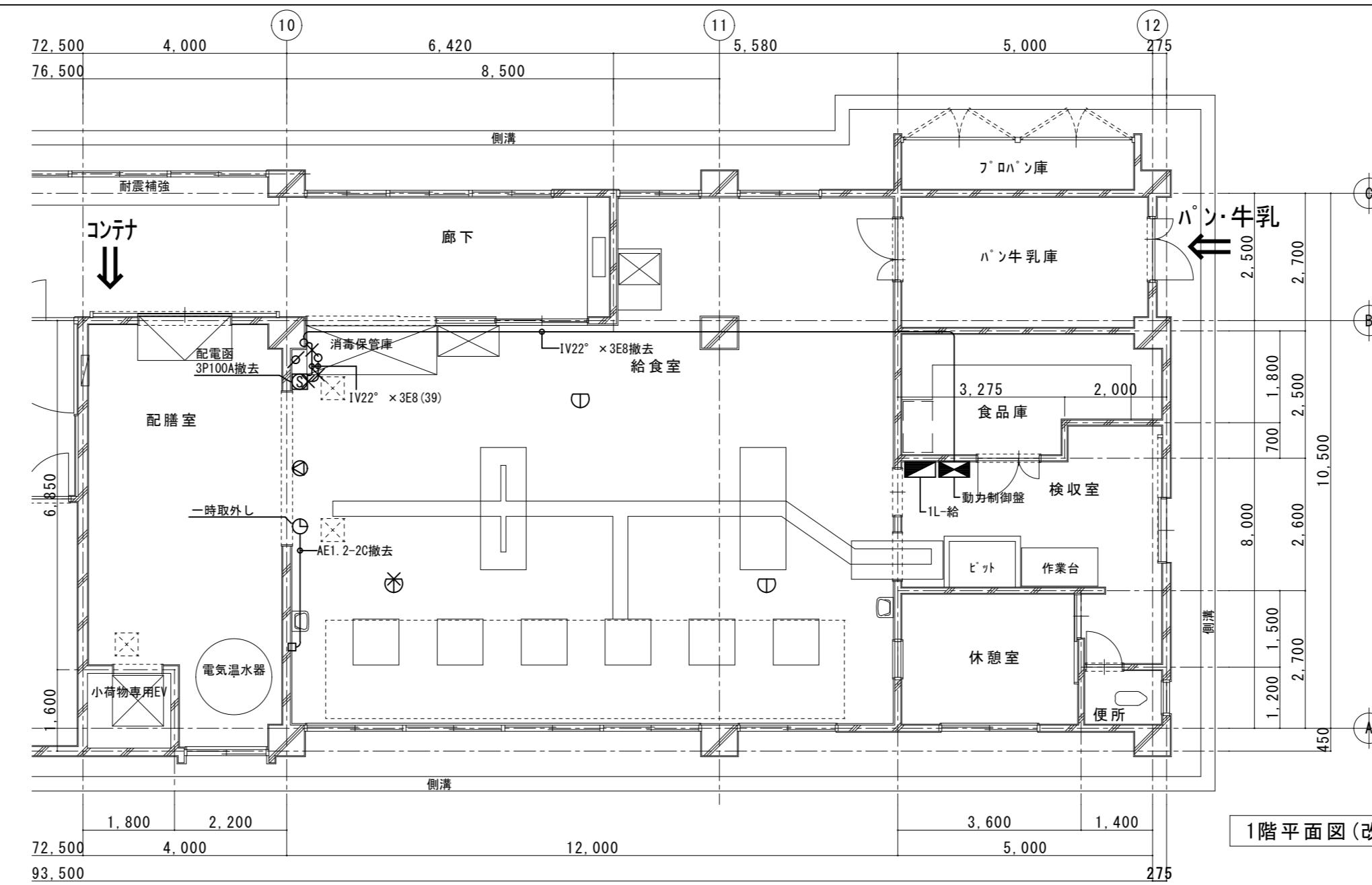
ARCHITECTS DESIGN 創空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称	図面内容 キーフラン・建具表（改修前・後）	図面番号 A-16
				津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	縮尺 S=1/50 年月日	枚ノ内 区分



ARCHITECTS DESIGN 倉空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称	図面内容 雑詳細図	図面番号 A-17
				津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	縮尺 S=1/7・10・20・30・200 年月日	枚ノ内 区分

20. 配線器具の設置	(1) 特殊コンセントはプラグ付とする。 (2) 電線の種類により色を区別する。 (3) 配線器具を取り付けた場所が会員の場合は、絶縁枠を使用する。 (4) フレートは、画面に特記なき場合、新金属製とする。 (5) カバーブレードは、原則として新金属製とする。 なお、器具を実装しない位置(ラック内)は用途表示をすること。 (6) フラップブレードは、水平高低調整型(空転防止リング付)とする。
21. 照明器具の設置	(1) コードベント入りの放電管及び水銀のある場所の器具は接地する。なお、金属配管の場合は、配管を利用してもよい。(乾燥した場所のコードベント1芯(緑色)を使用する。ただし、監督員の指示により1.6mmの絶縁電線(緑線)を用いること)。 (2) 地中線は電気配管と同一太さのケーブルの1芯(緑色)を使用する。ただし、監督員の指示により1.6mmの絶縁電線(緑線)を用いること)。 (3) 照明器具を設置する前に照度測定を行う。照度は一般形A級とする。 (4) 照明器具取扱完了後、照度測定を行う。照度は一般形A級とする。 (5) 放電器具は、器具本体より脱落防止の措置を行なう。 (6) バイブ吊りの照明器具は振れ止めを施す。
22. 照明改修の際の測定	対象箇所の改修後の照度及び回路電流の測定を次のとおり行なう。 測定箇所 測定回数 () 回
23. 分電盤、制御盤、キュービクル等	(1) 図面ホルダー内には、完成図及び回路の行き先がわかる面図を備える。 (2) 基本の高さは周囲の状況を考慮する。 (3) 電気室には水管、蒸気管、ガス管、ダクト等を通して通さない。
24. 受電設備、発電設備の設置場所	(1) 保守点検、防火上有る空間、維持管理の空間を考慮する。 (2) 基本の高さは周囲の状況を考慮する。
25. 発電設備の燃料保管	(1) フレキシブルジョイント取付位置は、施工前に所要の消防栓と十分に打合せを行う。 (2) 配管の接続は、機器の取外し又は保守点検を考慮して施工する。
26. 電波関係の計算及び測定	(1) 計算書の提出 電力量測定結果による計算書を提出 施工前・施工中・施工後 (2) 測定実施 測定項目 全受信チャンネルの電界強度、受像画質、等倍C/N、ピット誤り率の測定及び映像写真的撮影を行う。 測定期間 施工前・施工中・施工後 (3) 報告書提出部数 3書提出 () 部
27. 土工事	(1) 埋めし材料及び工法 ①木擁 (材料: 根切り土の中の良質土 / 工法: 機器による締固め) ・その他 () ただし、配管周りの埋めし材料は山砂とする。 (2) 特記なき地中配管設置の深さは、G.L.=600mm以上とする。 (3) 取引の種類は、マンホール、ハンドホール、屋外変電設備及び自家発電装置の基礎等は総括り、埋設管路等は別々、外灯、基礎、電柱等はつづりとする。 6. 配線遮断器の定格電流は、予算を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。
28. ハンドホール、マンホール	1) 地中路線及びハンドホール等次下が考慮される場合は、次下対策を施す。 2) 地耐力 ①地耐力は、建築基準法施行令第93条の短期耐力とする。 3) 高さ900mmを超えるものについては、タラップ付とする。 なお、タラップの代りは450mm間隔以内とし、原則として接地を施すこと。
29. 地中配線路の表示紙	下記の箇所に、地中配線路の表示紙を設置する。 ①建物への引込口及び送出口付近 ②マンホール・ハンドホール付近 ③地中路線の交折箇所 ④道路側断面 ⑤直線部分では30m程度に1個
30. 雷保護設備	(1) 避雷針 1) 避雷針 ・突針 ・桿上導体 ・笠木等の別途施工物 2) 避雷導線 ・引下げ導線 ・建築構造体利用 3) 接地極埋設 ・接地極埋設 4) 雷電抵抗の測定 ① 测定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 ② 測定回数 ・3回 ・() 回 5) 接地極埋設設備を設置する。
31. 雷サージ保護	(1) 耐雷トランジスト ・設置 (・単相用 ・動作用) ・設置しない 2) S.P.D. ・低圧用 (・クラス1 ・クラス2) ・通信用 (・カテゴリC2 ・カテゴリD1) 3) 低圧用S.P.D.クラスIの性能 別図による
32. 電源回路の保護	1) 低圧用P.C.D.を使用する配線用遮断器は直接接点とする。 2) 主幹機器の2次側に設ける場合の配線用遮断器は、定格遮断容量5kA以上とする。
33. 通信回線の保護	電話回線、制御回線などの通信回線に侵入するおそれがある場所は、雷サージから機器を保護するため通信用S.P.D.を設置する。
34. 接地設備	(1) 接地工事 1) 種別 ・A種 ・B種 ・C種 ・D種 2) 施工 ・各種単独 ・共用有り () (2) 接地抵抗の測定 1) 测定方法 ・電位差計方式 ・電圧降下法 2) 測定回数 ・3回 ・() 回 (3) 接地極埋設設備 接地には接地極埋設設備を施工し、接地極の位置がわかるようにする。
35. 变電設備	高圧以外の変電設備については、本項によらず別図による。
36. 变電設備	(1) 既設との取り合い ・無し ・改造 (機器取替、追加等を含む) ・増設 ・配線接続 ・その他 () (2) 機器類 ・盤類 ・交流遮断器 ・断路器 ・避雷器 ・負荷開閉器 ・変圧器 ・進相コンデンサ ・直列アクトル ・配線用遮断器 ・電磁接触器 ・その他 () (3) 盘類 1) 形式 ・キューピカル型配電盤 (JIS C 4620) ・高圧スイッチギア (JEM 1425) (・CX ・CW ・PW ・MW) 2) 中通路 ・有 ・無 3) 特記欄 (4) 交流遮断器 真空遮断器 (VCB) ① 操作方式 ・手動ねじ操作 ・電動ねじ操作 ② 引外し方式 ・電流引外し ・コンデンサ引外し ・直流電圧引外し
37. 断路器	1) 形式 ・3極単投 ・单極單投 (避雷器用に限る) 2) 操作方式 ・遠方手動操作 ・フック棒操作 (避雷器用に限る)
38. 負荷開閉器	(1) 形式 ・配電盤用 ・引込柱用 ・地中引込用 ・ショック棒操作 ・遠方手動操作 ・電動操作 (2) 配電盤用 ① 操作方式 ・手動 ・3極 ・引外し ② 本体及び制御箱の材質 ・スチール ・銅製 3) 引込柱用 ① 本体及び制御箱の材質 ・スチール ・銅製 ② 保護装置 ・過電流蓄勢トリップ付地絡方向继電器とし、制御電源用変圧器内蔵とする ③ 避雷器 ・内蔵 ・無
39. 変圧器	(1) 形式 ・油入 ・モールド 2) 設置方式 ・屋内型 ・屋外型 3) ダイヤル温湿度 ・有 (・最大指針有 ・最大指針無) ・無
40. 地中引込用	油入500kVA以上、モールド150kVA以上の場合は必須とする
41. 電気設備	(1) 既設 1) 既設等との取り合 ・無し ●盤改造 ・配線接続 ・電源供給 ・その他 () (2) 機器類 ●一般照明器具 ・照明制御装置 ・外灯 (単独設置) ●コンセント等 ・分電盤、制御盤等 ・その他 ()
42. 一般照明器具	1) 形式 ●HID型 2) 灯具 ●LED灯 ・HID灯 ・その他 () 3) 環境 ・普通環境 ・塗装環境 4) 照明器具は認証書又は規定を満足する試験成績書を提出すること。 5) HIDランプは電子点灯管やグローランプを使用するものは、電子点灯管に交換するものとする。 6) HIDランプを使用する下面開放式器具及びランプの破損による怪我をする恐れのある場合は、飛散防止を施したランプとする。
43. 照明器具の設置	(1) センサ類 ・明るさセンサ ・人感センサ ・タイマー ・調光スイッチ 2) 調光方式 ・調光調光 ・段階調光 ・ON/OFF制御 3) 外灯 (単独設置) 1) 照明用ポール ・材質 ・アルミニウム製 ・鋼製 ・溶融亜鉛メッキ ・その他 () 2) 基礎 ・本体 ・別途工事 ・既設利用 3) 对光 ・ナチュラル灯 ・HIDランプ ・LED灯 ・その他 () 4) 安全灯 ・一般形高光形 (BH) ・低始動電流形 5) 電源 ・商用電源 (60Hz) (・200V ・100V) ・単相電源 (・太陽電池式 ・風車式) 6) 制御 ・E.S.I.スイッチ ・タイマー ・その他 () 7) 接地 ・単独接地 (・本工事 ・別途工事 ・既設利用) ・共用 ・その他 () 8) コンセント等 ●防水型 ・ハイテクシヨウアウトレット (・固定型 ・上下動型 (アップ式を含む))
44. 電気設備	(1) 分電盤、制御盤等 1) 銀板には、公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 因面ホルダーは、A4サイズ以上 (キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。) とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプレス (ボタン式) を取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用端子は点検のしやすい場所に設ける。 5) 遠隔監視用端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 遠隔監視用端子の定格電流は、予算を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。
45. 地下室	1) 地中路線及びハンドホール等次下が考慮される場合は、次下対策を施す。 2) 地耐力 ①地耐力は、建築基準法施行令第93条の短期耐力とする。 3) 高さ900mmを超えるものについては、タラップ付とする。 なお、タラップの代りは450mm間隔以内とし、原則として接地を施すこと。
46. 地中配線路の表示紙	下記の箇所に、地中配線路の表示紙を設置する。 ①建物への引込口及び送出口付近 ②マンホール・ハンドホール付近 ③地中路線の交折箇所 ④道路側断面 ⑤直線部分では30m程度に1個
47. 動力設備	(1) 既設との取り合 ・無し ●盤改造 ・配線接続 ・その他 () (2) 機器類 ・分電盤、制御盤等 ・その他 () (3) 負荷設備 ・給水 ・排水 ・消火 ●空調 ・換気 ・排煙 ・昇降機 ・その他 () (4) 贠荷設備への接続 因面に特記明示がない場合、負荷設備への接続は本工事とする。 (5) 電動機等の接地 ・専用接地 ・金属管接地 (7.5kW以下) (6) 電動機等の効率の改善 本工事に含む制御盤には各負荷に効率改善コンデンサを取り付ける。 (7) 保護継電器 過負荷、欠相、逆相繼電器は熱動作とする。 (8) 分電盤、制御盤等 1) 銀板には、公共建築工事標準仕様書 (電気設備工事編) に定める事項に加えて、施工年月、受注者名、施工者名を記載する。 2) 因面ホルダーは、A4サイズ以上 (キャビネットのサイズ等により取付けできない場合を除く。) とする。 3) 表示ランプ等がある場合は、ランプレス (ボタン式) を取付ける。 4) 接地用端子又は接地線用端子は点検のしやすい場所に設ける。 5) 遠隔監視用端子は盤内の作業のしやすい場所に設ける。 6) 遠隔監視用端子の定格電流は、予算を含めた負荷電流以上とし、定格遮断容量は、系統に流れる短絡電流の値以上とする。
48. 交流無停電電源設備	(1) 用途 ・() (2) 容量 () kVA (3) 組電方式 ・常時インバータ給電方式 ・ラインインタラクティブ方式 ・常時商用給電方式 ・その他 () (4) 整流装置等 整流装置、インバーター装置は、接続する負荷の特性を配慮し選定する。 (5) 蓄電池 1) 种類 ・鉛蓄電池 (・HS ・MSE ・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH ・AMH) ・その他 () 2) 最低蓄電池温度 ・5°C ・15°C ・25°C ・-5°C (6) 性能 停電補償時間 ()
49. 直流電源設備	(1) 用途 ・() (2) 機能 ・ピークシフト機能 ・ピークカット機能 ・商用停電時のバックアップ機能 (3) 蓄電池 1) 种類 ・リチウム二次電池 ・鉛蓄電池 ・ニッケル水素蓄電池 2) 容量 () 3) 期待寿命 ・() 4) 充放電回数 ・() 5) 放電時間 ・() 6) 補機類 ・製造者標準 ()
50. 電力平準化用蓄電設備	(1) 用途 ・() (2) 機能 ・ピークシフト機能 ・ピークカット機能 ・商用停電時のバックアップ機能 (3) 蓄電池 1) 种類 ・リチウム二次電池 ・鉛蓄電池 ・ニッケル水素蓄電池 2) 容量 () 3) 期待寿命 ・() 4) 充放電回数 ・() 5) 放電時間 ・() 6) 補機類 ・製造者標準 ()
51. 交流無停電電源設備	(1) 用途 ・() (2) 容量 () kVA (3) 組電方式 ・常時インバータ給電方式 ・ラインインタラクティブ方式 ・常時商用給電方式 ・その他 () (4) 整流装置等 整流装置、インバーター装置は、接続する負荷の特性を配慮し選定する。 (5) 蓄電池 1) 种類 ・鉛蓄電池 (・HS ・MSE ・長寿命形MSE) ・アルカリ蓄電池 (・AH ・AMH) ・その他 () 2) 最低蓄電池温度 ・5°C ・15°C ・25°C ・-5°C (6) 性能 停電補償時間 ()
52. 通信・情報設備	14. 横内情報通信網設備
53. 通信・情報設備	(1) インターフェース 1) LAN ・1000BASE-T ・無線LAN () 2) WAN ・() (2) 機器 ・スイッチ ・ルータ ・メディアコンバータ ・ファイアウォール ・時刻同期装置 ・ネットワーク管理装置 ・機器収納ラック ・アウトレット 各機器の仕様詳細は別図による。
54. ケーブル	(1) 幹線系 ・UTP ・光ファイバー ・その他 () (2) 支線系 ・UTP ・光ファイバー ・その他 () (3) フィアース ・UTP ・光ファイバー ・その他 ()
55. アウトレット	・ローテーションアウトレット (・固定型 ・上下動型 (アップ式を含む)) ・壁コンセント ・その他 ()
56. 橫内交換設備	(1) 機器 ・交換装置 ・電話機 ・端子盤類 ・アウトレット ・スイッチ ・ルータ ・メディアコンバータ ・ファイアウォール ・時刻同期装置 ・ネットワーク管理装置 ・機器収納ラック ・アウトレット 各機器の仕様詳細は別図による。
57. 交換装置	(1) 種別 ・デジタルPBX ・IP-PBX ・VoIP-SIPサーバ ・ボタン電話装置 2) 局線応答方式 ・局線中継台方式 ・分散中継台方式 ・ダイヤルイン方式 ・その他 () 3) 保安用接地 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 4) 本配電盤 (MDF) ・自立式フレーム (・片面形 ・背面形) ・交換機一体型 ・壁掛型 5) 電源装置 ① 形式 ・別置型 ・一体形 ・その他 () ② 停電補償時間 ・3分以上 () 以上
58. 電話機	・一般電話機 ・デジタルコードレス電話機 (PHS方式) ・IPコードレス電話機 (無線LAN方式) ・その他 ()
59. 端子盤類	1) 端子盤 ・中継端子盤 (ID F) 2) 中継端子盤には実装用20%以上、室内端子盤には10%以上の接続端子板スペースを見込む。
60. アウトレット	・ローテーションアウトレット (・固定型 ・上下動型 (アップ式を含む)) ・壁コンセント ・その他 ()
61. 情報表示設備	(1) 設備 ・マルチサイン装置 ・出退表示装置 ・時刻表示装置 ・警報等表示装置 (2) マルチサイン装置 1) 機器 ・操作接御部 ・情報表示部 ・その他 () 2) 通信方式 ・T-COM-IP ・その他の 3) 操作接御部 ・イメージスキャナ ・無 4) 情報表示部 ・発光ダイオード ・液晶式 ・その他 () (3) 出退表示装置 1) 機器 ・制御装置 ・出退表示 ・发光ダイオード ・液晶式 ・その他 () (4) 時刻表示装置 1) 機器 ・時計 ・電源装置 ・単結時計 ・その他 () 2) 時刻補正機能 ・局線時計 ・T-COM-IP ・その他の 3) 電源装置 ・DC ・AC ・長波電波受信 ・アンテナ設置 ・既設利用 ③ 回路数 () 回 4) 機能 ・電子カレンダー () 曲 ・時刻 ・プログラムタイマ 3) 機器 ・方式 ・アナログ ・デジタル 4) 時計 ・形式 ・端子数 ・屋内 ・屋外 5) 電源装置 ① 方式 ・AC ・DC ② 電源 ・電池 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ③ 時刻補正機能 ・有 ・無 (5) 訃報等表示装置 1) 機器 ・表示盤 2) 表示盤 ① 表示方式 ・表示窓 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ② 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 3) 檢出装置 ① 檢出方式 ・電線 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 ② 施工 ・本工事 ・別途工事 ・既設利用 4) 因面に特記明示がない場合、検出装置への接続は本工事とする。

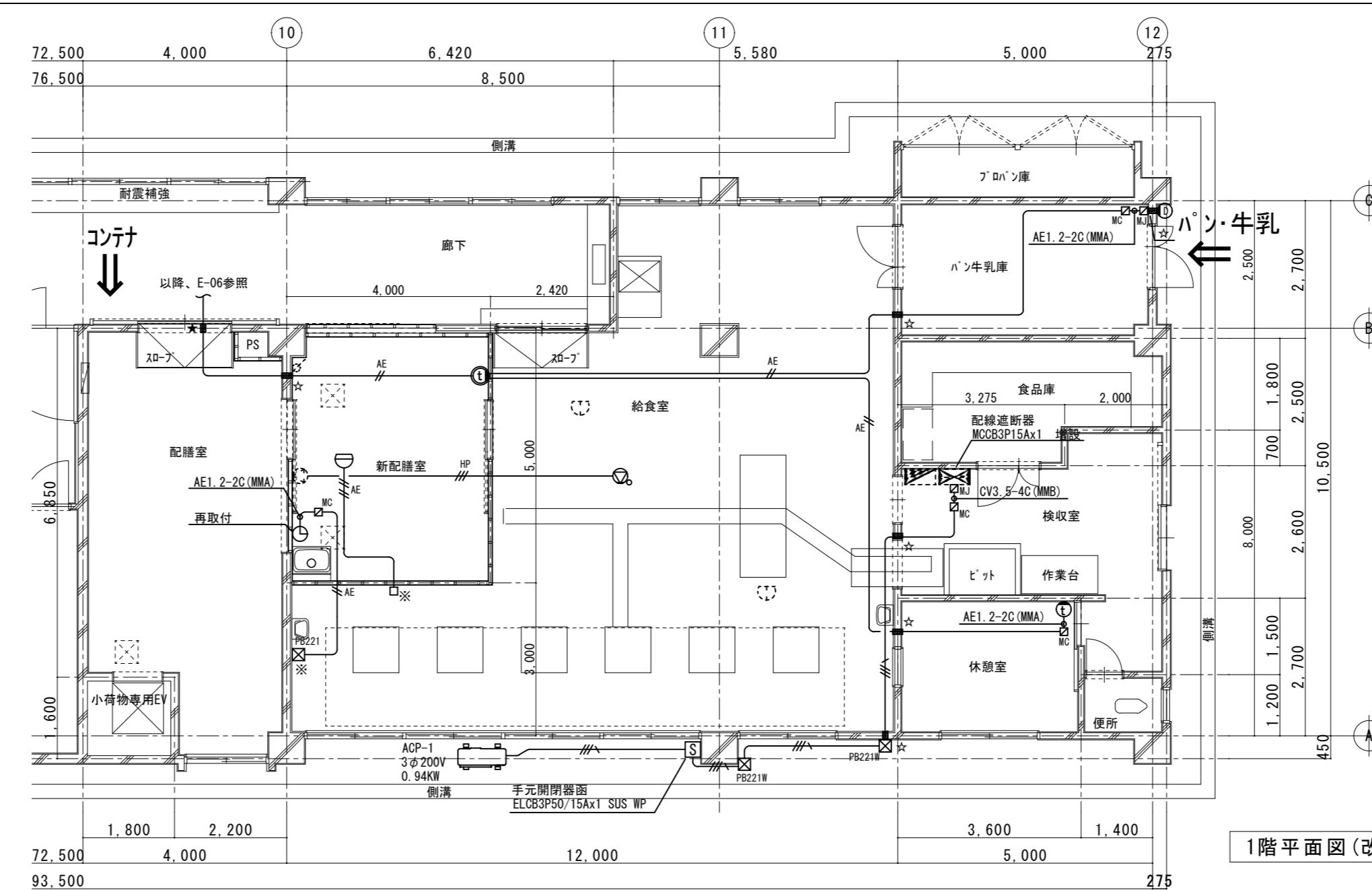
ARCHITECT



注記

- | | |
|-----|---------------|
| 1. | 図中記入なきは下記とする。 |
| X | 機器撤去を示す |
| —X— | 配管、配線撤去を示す |

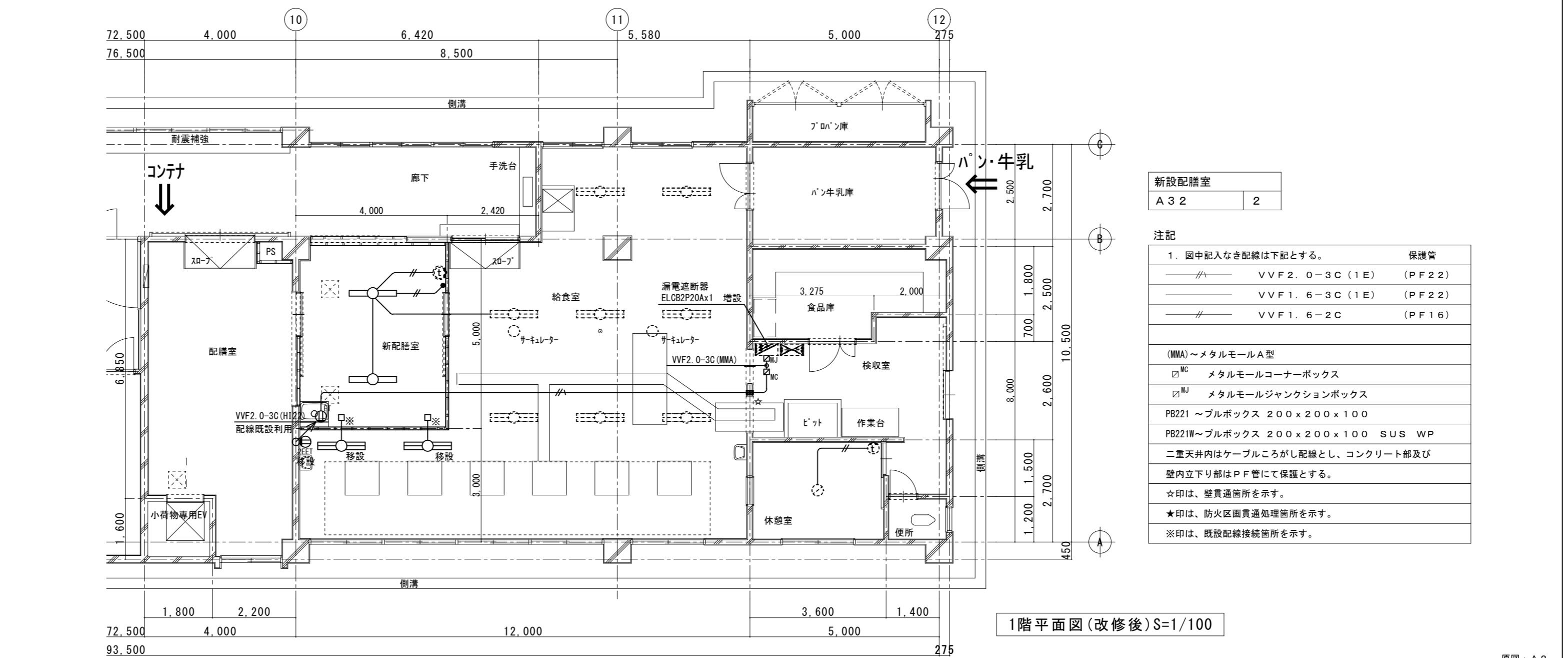
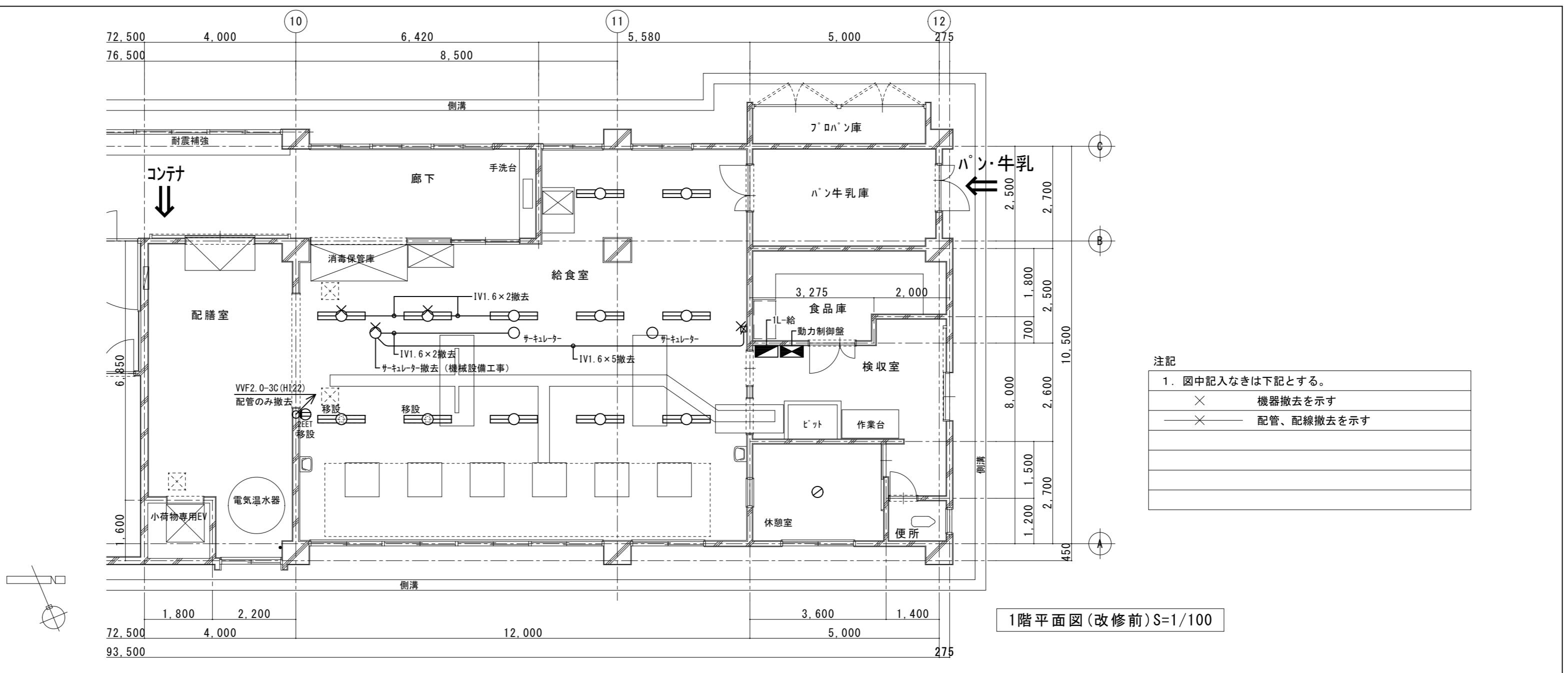
1階平面図(改修前) S=1/100



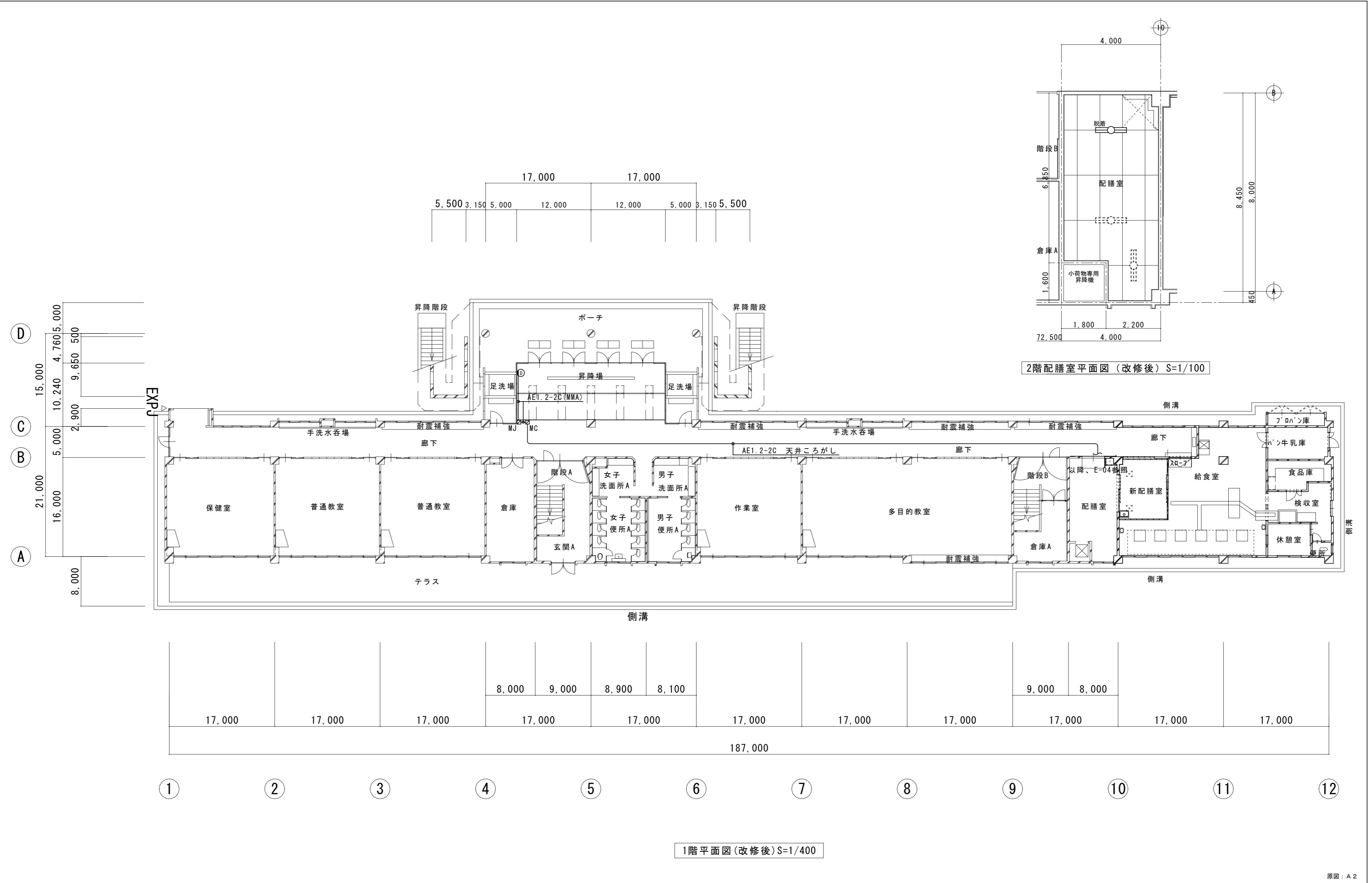
注記

- | | | |
|---|-------------------|-----------|
| 1. 図中記入なき配線は下記とする。 | | 保護管 |
| <u> //AE</u> | A E 1. 2 - 2 C | (P F 1 6) |
| <u> ///AE</u> | A E 1. 2 - 4 C | (P F 1 6) |
| <u> //</u> | V V F 1. 6 - 2 C | (P F 1 6) |
| <u> ///\</u> | C V 3. 5 - 4 C | (H I 2 2) |
| <u> ///HP</u> | H P 1. 2 - 3 C | (P F 1 6) |
| (MMA) ~メタルモールA型 | | |
| <input checked="" type="checkbox"/> MC | メタルモールコーナーボックス | |
| <input checked="" type="checkbox"/> MJ | メタルモールジャンクションボックス | |
| PB221 ~ブルボックス 200 x 200 x 100 | | |
| PB221W~ブルボックス 200 x 200 x 100 S U S W P | | |
| 二重天井内はケーブルころがし配線とし、コンクリート部及び
壁内立下り部はP F管にて保護とする。 | | |
| ☆印は、壁貫通箇所を示す。 | | |
| ★印は、防火区画貫通処理箇所を示す。 | | |
| ※印は、既設配線接続箇所を示す。 | | |

1階平面図(改修後) S=1/100



ARCHITECTS DESIGN 創空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称 津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	図面内容 1階電灯コンセント設備平面図 (改修前・改修後)	図面番号 E-05 枚ノ内
					縮尺 S=1/100 年月日	区分



ARCHITECTS DESIGN 創空間設計	一級建築士事務所 三重県知事登録 第1-2026号 一級建築士 大臣登録 第327163号 萩原 正洋	訂正	特記	工事名称	図面内容	図面番号
				津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事	1階弱電設備平面図 (改修後) 2階電灯設備平面図 (改修後)	E-06 机ノ内区分

原図: A 2

機械設備工事特記仕様書									
1 工事名称	津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事								
2 工事場所	津市 分部 地内								
3 建築概要	消施令の適用								
4 適用基準	国土交通省大臣官房庁常務監修 「公共建築工事標準仕様書(建築、電気、機械設備工事編) 平成28年版」 「公共建築改修工事標準仕様書(建築、電気、機械設備工事編) 平成28年版」 「公共建築改修工事標準図(電気、機械設備工事編) 平成28年版」 「建築、電気、機械設備工事監理指針平成28年版」 独立行政法人 建築研究所監修 「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」 下記の該当する項目を適用する。また、特記事項において選択する項目は、■印のついたものを適用する。								
5 一般事項	工事の詳細については、本設計図面及び仕様書による他、上記各適用基準に準拠し、監督員指示の下に入念かつ誠実に施工すること。 設計図面に定められた内容、現場の納まり、取り合い等の不明な点や施工上の困難、不都合、図面上の誤記及び記載漏れ等における問題點及び疑義、設計図書とおりに施工することで将来不具合が発生しうると判断される場合は、その都度、監督員と協議すること。なお設計図書とおりの施工であっても使用上の不具合が発生した場合は協議の上、改善策を講じること。 他工事との取り合いで、あるいは施工の取扱いによって協議し、円滑な工事進捗に努めること。なお調整不足により当該工事の関係箇所において協議し、円滑な工事進捗に努めること。 他工事との取り合いで、あるいは施工の取扱いによって協議し、円滑な工事進捗に努めること。 (1) 提出図書 ■建築工事に準じる 1) 工事書類 : 施工計画書 打合記録 施工要領書 機器使用願 機器明細図 工程表 施工図等 2) 工事完成図書 : 品質確認書類 工事日報 工事写真 安全・訓練実施記録 完成図(竣工図[製本3(原寸1部, A3見開き2部)]・施工図[製本1部]) 機器完成図(ファイル等1部) 保守に関する説明書(取扱説明書・保証書) 2部 機器性能試験成績書 1部 総合調整測定表(試験結果・測定結果等) 1部 官公署届出類控、検査済証 1部 出来形確認書類 1部 等 ※ 施工図、施工図はCADにより作成すること。 ※ 工事写真是當工事写真撮影要領(平成28年版)に従い撮影すること。 ※ 建築包含工事の場合、監督員に確認のこと。								
6 6 工事種目	給排水衛生設備工事 □屋外給水設備工事 ■屋内給水設備工事 □屋外排水設備工事 ■屋内排水設備工事 ■衛生器具設備工事 □屋内ガス設備工事 ■給湯設備工事 □屋外ガス設備工事 □厨衛機器設備 空調設備工事 ■機器設備工事 ■配管設備工事 ■換気設備工事								
7 7 工事概要	給排水衛生設備工事 (1) 給水設備工事 本工事は図示のごとくを工事範囲とし、直圧式により所用の各所に給水する。直圧部の弁類は、水道局規格品JIS 10Kを使用する。 (2) 屋内排水通水設備工事 本工事は、雑排水を既設樹に接続放流する。 (3) 衛生器具設備工事 衛生器具を所定の位置に附属金具により堅固に取り付けるものとし、陶器の色は監督員と協議して上決定する。 (4) 給湯設備工事 電気温水器による局所給湯方式とし、図示の各所に給湯する。								
8 8 総合調整	(1) 風量調整 □適用する ■適用しない (2) 水量調整 ■適用する □適用しない (3) 室内外空気の温度測定 ■適用する □適用しない (4) 室内外空気の湿度測定 ■適用する □適用しない (5) 室内気流及びじんあいの測定 □適用する ■適用しない (6) 騒音の測定 □適用する ■適用しない (7) 飲料水の水質の測定(水道法施行規則第10条による水質検査) □適用する ■適用しない のうち 一般細菌、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩化物イオン、有機物(全有機炭素(TOC)の量)、pH値、味、臭気、色度、濁度について測定を行なうこと。 (8) その他() □適用する □適用しない								
9 9 工事種目	部分的に配管種類を変更する場合は、図面内に明記すること。 ■給水管 ■水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K116 (一般: SGP-VB 地中: SGP-VD) □フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 011 (一般: SGP-FVA, FVB 地中: SGP-FVD) ※ 繋ぎ手はコア内蓋蓋とする。 ■給水管100mmはねじ又はフランジ接合、125mm以上はフランジ接合(工場加工)とする。 □水道用硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6742 (一般・地中: HVIP) □水道用水用ボリエチレン管 JWWA K 144 (地中: PE) □水道用ステンレス鋼管 JWWA G 115 □一般配管用ステンレス鋼管 JIS G 3448 ※ 地中埋設管は、取出し位置のGL面又はSL, FL面より+100立ち上げた所までとする。								
10 10 その他の工事	(1) 使用機械 低騒音型、低振動型の建設機械の使用に努めること。 (2) 測定機器の校正記録 工事で使用する測定機器に対しては適正に校正した器具を使用しなければならない。 測定時に立ち使用する測定機器の検査済証(写し)又は校正記録(写し)を監督員に提示すること。 (3) フロン回収及び充填 当該工事を施工するに当たって施工時にフロン類の充填、回収作業を行う場合は、フロン類の使用の合理化及び管路の適正化に関する法律(平成27年4月1日施行)等の関係法令を遵守し、第1種フロン類充填回収登録業者が行うこと。								
11 11 その他の工事	(1) 配管材 ■配管用炭素鋼管(白) JIS G 3452 (SGP-白) ※ 繋ぎ手はドレジング継ぎ又は、MD継ぎ手を使用 (地中・コンクリート埋設は防護テープ重巻き) ■土間・一般: 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □土間: リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125mm以下はVP、150mm以上はVUとする。 □排水・通気用硬質二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 □通気管 □配管用炭素鋼管(白) JIS G 3452 (SGP-白) ※ 繋ぎ手はドレジング継ぎ又は、MD継ぎ手を使用 (地中・コンクリート埋設は防護テープ重巻き) ■土間: 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □土間: リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125mm以下はVP、150mm以上はVUとする。 □排水・通気用硬質二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 □汚水管 □排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 042 ※ 同上MD継ぎ JP MDU 002 □土間・一般: 硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □土間: リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125mm以下はVP、150mm以上はVUとする。 □排水・通気用硬質二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 □鉛管 □排水・通気用鉛管 SHASE-S203 □給湯管 □水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K 140 (一般: SGP-HVA 地中: WHLP 内外面耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管) □水道用ステンレス鋼管 JWWA G 115 □一般配管用ステンレス鋼管 JIS G 3448 □ガス管 □配管用炭素鋼管(白) JIS G 3452 (SGP-白) □土間: 塩ビ管を被覆鋼管(黒) □ガス用ボリエチレン管 JIS K 6742 (地中: PE) ※ 地中埋設管は、取出し位置のGL面又はSL, FL面より+100立ち上げた所までとする。 □ガス使用者の供給規定に準じる □消火管 □配管用炭素鋼管(白) JIS G 3452 (SGP-白) □消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(白) WSP041 (SGP-VS) ※ 地中埋設管は、取出し位置のGL面又はSL, FL面より+100立ち上げた所までとする。 □屋外埋設排水 □硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) □リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) □排水用リサイクル硬質ポリ塩化ビニル管 AS-58 (RE-P-VU) □リサイクル硬質ポリ塩化ビニル三層管 JIS K 9797 (RS-VU) ※ 125mm以下はVP、150mm以上はVUとする。 □コンクリート管 JIS A 5372 (プレキャスト鉄筋コンクリート製品) (1類水路用耐心筋コンクリート管) □冷温水配管 □配管用炭素鋼管(白) JIS G 3452 (SGP-白) □水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管 JWWA K 140 (一般: SGP-HVA) □冷却水管 □配管用硬質塩化ビニルライニング鋼管 JIS G 3452 (SGP-白) □水道用硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 011 (一般: SGP-VA, WB) □フランジ付硬質塩化ビニルライニング鋼管 WSP 011 (一般: SGP-FVA, FVB) ■ドレン管 □配管用炭素鋼管(白) JIS G 3452 (SGP-白) ■硬質ポリ塩化ビニル管 JIS K 6741 (VP・VU) ■保温付硬質ポリ塩化ビニル管 □リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管 JIS K 9798 (RF-VP) ※ 125mm以下はVP、150mm以上はVUとする。 □排水用硬質二層管 JIS K 6741 (硬質塩化ビニル管) 又は JIS K 9798 (リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管RF-VP) 規格品に織維モルタルで被覆したもので国土交通大臣認定のもの。 ■冷媒管 □銅及び銅合金銀目無管 硬質、軟質または半硬質 JIS H3300 ■断熱材被覆鋼管 原管はJIS H3300による。 製造者標準品 ただし、保温厚さ: ガス管 20mm、液管 10mm(液管の呼び径が9.52mm以下の断熱厚さは8mmとしてよい)とする。 ※ 冷媒配管の肉厚は、冷暖房規則別冊基準の規定による。 □油管 □配管用炭素鋼管(黒) JIS G 3452 溶接接合 □蒸気管 □配管用炭素鋼管(黒) JIS G 3452 □ブライン管 □配管用炭素鋼管(黒) JIS G 3452								
12 12 その他の工事	※ 弁類 搪水ポンプ(二次側)、消防ポンプ(二次側)、水道直圧部は 10Kとし、それ以外は 5Kとする。 塩ビライニング鋼管に使用する際は、管端防食コア付き、又はライニング弁を使用すること。								



一級建築士事務所
三重県知事登録 第1-2026号
一級建築士 大臣登録 第327163号
萩原 正洋

訂正

特記

工事名称

津市立櫛形小学校給食受入施設改修工事

面内内容

機械設備工事特記仕様書 1

面番号

M-01

縮尺

-

年月日

区分

※ 横走り管の吊り間隔		
鋼管	100A以下	— 2m 以下 3m以下
ビニル管	80A以下	— 1m 以下
耐火二層管	100A以上	— 2m以下
鋼管		1.5m以下
鋁管		標準図による

※ 横走り管形鋼振れ止め支持間隔		
支持間隔	6m以下	8m以下 12m以下
鋼管	—	50A~100A 125A~
錆鉄管		
ビニル管	25A~40A	50A~100A 125A~
耐火二層管		
鋼管		

※ 冷媒用銅管の横走り管の支持間隔
基準外径 9.52mm 以下 吊り間隔 1.5m以下
基準外径 12.70mm 以上 吊り間隔 2.0m以下
形鋼振れ止め支持間隔は、鋼管に準ずる。

- (2) ダクト工事
矩形ダクト 垂鉄板 JIS G 3302 (SGCC, SGCA) 錫金付着Z18以上
 ステンレス鋼板 JIS G 4305
工法 アングルフランジ工法
 共板フランジ工法
 スライドオンフランジ工法
形鋼補強 山形鋼 JIS G 3101 SUS鋼材 JIS G 4317
丸ダクト スパイラルダクト
 下水道用リサイクル三層硬質塩化ビニル管 (多湿箇所) AS-62 (RS-VU)

(3) 保温塗装工事	
1) 材料 部分的に材料を変更する場合は、図面内に明記すること。	
■ グラスウール保温材	保温筒 JIS A 9504 2号 40K (屋内一般等)
■ 給水管	■ 排水管 ■ 給湯管 □ 温水管
□ 蒸気管	□ 冷水・冷温水管 □ 冷媒管 □
(屋外等)	
□ 給湯管	□ 温水管 □ 蒸気管 □ 冷水・冷温水管
□ 冷媒管	□ □ □
□ ロックウール保温材	保温板、保温帶、ブランケット (防火分区貫通部等)
□ 給水管	□ 排水管 □ 給湯管 □ 温水管
□ 蒸気管	□ 冷水・冷温水管 □ 冷媒管 □ 消水管

□ ポリスチレンフォーム保温材	保温筒 JIS A 9511 3号 (屋内一般等)
□ 給水管	□ 排水管 □ 冷水・冷温水管 □ 冷水管 (2~4°C)
□ ブライン管	□ □
(屋外等)	
□ 給水管	□ 排水管 □ 給湯管 □ 冷水・冷温水管
□ ブライン管	□ 消水管 □ □
□ 調合ペイント塗り塗料	JIS K 5516 (合成樹脂調合ペイント) 1種 (露出)
□ 給水管	□ 排水管 □ 通気管 □ ドレン管
□ ガス管	□ 消水管 □ 油管 □ 冷却水管

2) 保温厚	
・ グラスウール、ロックウール	
保温厚 (mm)	20 25 30 40 50
給水・排水・ドレン・給湯	~80A 100~150A - 200A~ -
膨張・温水・消防管	- - 32~50A 65A~ -
蒸気管	~25A - 32~50A 65A~ -
冷水・冷温水・冷媒管	- - ~25A 32~200A 250A~

・ ポリスチレンフォーム	
保温厚 (mm)	20 25 30 40 50 65
給水・排水・排水管	~80A 100A~ - - -
冷水・冷温水管	- - ~25A 32~200A 250A~ -
冷水管 (冷水温度2~4°C)	- - ~20A 25A~100A 125A~ -
ブライン管	- - - ~25A 32~80A 100A~

・ 機器ダクト保温厚	
保温厚	
25mm	ダクト (屋内露出 [機械室、書庫、倉庫]、消音チャンバー・エルボ膨張タンク、鋼板製タンク、排煙ダクト遮蔽部 (ロックウール))
50mm	ダクト (屋内露出 [一般居室、廊下])、サプライチャンバー、貯湯タンク類 冷水・冷温水・温水・環水タンク、熱交換器、冷水・冷温水・温水・蒸気ヘッダー 排気筒遮蔽部 (ロックウール))
75mm	煙導 (ロックウール)

3) 種別 給排水衛生設備配管の保温仕様
1 2 3 4
屋内露出 保温筒 鉄線 合成樹脂カバー
機械室・書庫・倉庫 保温筒 鉄線 原紙 アルミガラスクロス仕上
天井内・P S内 保温筒 鉄線 アルミガラスクロス粘着テープ
暗渠内 (ビット内) 保温筒 鉄線 ポリエチレンフィルム 著色7色がうすめ
屋外露出 保温筒 鉄線 ポリエチレンフィルム SUS鋼板仕上

※ 1) 排水管については、上表暗渠内 (ビット内) の仕様を防食テープ巻きに読み替える。

※ 2) サヤ管工法、架橋式 (エチレン・ポリブテン) 曾使用の場合は、上表保温不要。

※ 3) 消水管の外部露出のは保温を行う。

空調設備配管の保温仕様 (R, G保温材の仕様のみ)
1 2 3 4 5
屋内露出 保温筒 鉄線 合成樹脂カバー
機械室・書庫・倉庫 保温筒 鉄線 原紙 アルミガラスクロス仕上
天井内・P S内 保温筒 鉄線 アルミガラスクロス仕上
(温水・蒸気管以外) 保温筒 鉄線 著色アルミガラスクロス仕上
暗渠内 (ビット内) 保温筒 鉄線 著色アルミガラスクロス仕上
屋外露出 保温筒 鉄線 SUS鋼板仕上

※ 1) 冷媒管に断熱材を被覆鋼管を使用した場合の保温種別

■ 保温材 ■ ポリスチレン成形上、SUS鋼板仕上 (屋外露出部分)

機器保温仕様
1 2 3 4 5
冷水・冷温水タンク 保温板 ポリエチレン フィルム SUS鋼板仕上 鋼板製タンク 鋼板
冷水・冷温水ヘッダ 保温板 鋼板
温水・膨脹・温水 保温板 鋼板 SUS鋼板仕上 貯湯タンク 鋼板
温水・蒸気ヘッダ 保温板 鋼板
熱交換器

※ 1) 密閉膨張タンク及び、プレート形熱交換器は、保温施工不要

ダクト・チャンバー・煙道 保温仕様
1 2 3 4 5
長方 屋内露出 一般・廊下 保温板 カラー鉄板
形ダクト 機械室 保温板 アルミガラスクロス化粧保温板
屋内隠蔽、D S内 保温板 アルミガラスクロス化粧保温板
屋外露出、多湿箇所 保温板 鋼板 ポリエチレンフィルム 鋼板
スパ 保温板 鋼板 カラー鉄板
イラ 機械室 保温板 アルミガラスクロス化粧保温板
ルダ 屋内隠蔽、多湿箇所 保温板 アルミガラスクロス化粧保温板
屋外露出、多湿箇所 保温板 鋼板 ポリエチレンフィルム 鋼板
サプライチャンバー、エルボ 保温板 保温板 ガラスクロス 鋼板
排煙ダクト長方形 屋内隠蔽 保温板 アルミガラスクロス化粧保温板
排煙ダクト円形 屋内隠蔽 保温板 アルミガラスクロス化粧保温板
煙道 ブラケット 保温板 カラー鉄板

※ 1) 排煙ダクトは、ロックウール保温板、保温帶、1号を使用。

※ 2) 煙道ブランケットは、JIS G 3554 (亜鉛金網) による亜鉛鍍金を施した網目16線径0.55

による防錆処理を施した平ラス0号で外側補強したものを使用。

※ 3) 鋼板金網は、JIS H 3260 網目10、線径5

配管用炭素鋼鋼管の塗装仕様
機材 状態 塗料の種別 塗り回数 備考
白管 露出 調合ペイント 1 1 1 下塗りはさび止めペイント
黒管 露出 調合ペイント 2 1 1 下塗りはさび止めペイント

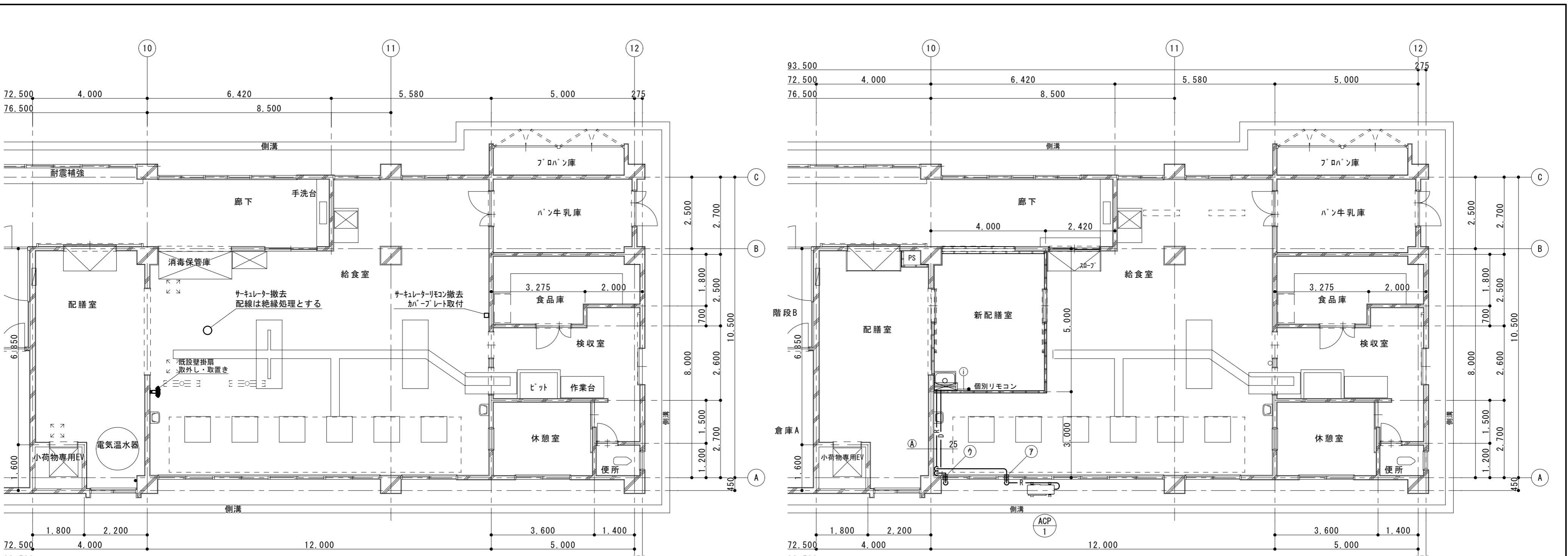
※ 1) ねじ切りした部分の鉄面は、さび止めペイント2回塗りを行う。

4) 施工 ダクト保温施工範囲
1. SA
□ 保温あり □ 保温なし □ 固面による □その他 ()
2. EA
□ 保温あり □ 保温なし □ 固面による □その他 ()
3. RA
□ 保温あり □ 保温なし □ 固面による □その他 ()
4. OA
□ 保温あり □ 保温なし □ 固面による □その他 ()
チャンバー内貼施工
□ 内貼あり (mm) □ 内貼なし □ 固面による □その他 ()

- (4) スリーブ工事
- 管スリーブの径は、原則として、管の外径 (保温されるものは、保温厚さを含む) より40mm程度大 (2サイズIP) なるものとする。
箱抜きスリーブは、木枠又は鋼板 (実管ダクト) とする。
 - 地中部分のスリーブは、塗化ビニル管 (VU) とし、水密を要する部分のスリーブは、つば付き鋼管とする。
 - その他のスリーブは、特記なき限り、紙ボイドとする。紙ボイド使用の際は、配管前に必ず撤去のこと。

共通事項

- 陸上ポンプ、送排風機 (エアハンドル) の電動機は、すべて全閉防まつ形とする



1階平面図(改修前) S=1/100

1階平面図(改修後) S=1/100

空調機器表(新設)

記号	形式・名称	仕様	台数	備考・参考型番
ACP-1	パッケージエアコン	冷房能力 : 3.6(1.7~4.0)Kw 暖房能力 : 4.0(1.8~5.3)Kw 壁掛型 3相200v 冷房定格消費電力 : 0.895kW 暖房定格消費電力 : 0.940kW	1	防振ゴム ワイヤードリモコン 室外機防護ネット 既製コンクリート基礎

特記事項：運転特性、能力はJIS条件による。電気容量値は参考とする。空調機は省エネタイプを仕様とすること。

空調機トップランナー基準改定仕様とする。冷媒ガスはオゾン破壊係数ゼロとする。室外機-室内機間の2次側配線は冷媒管と抱き合わせの上本工事とする。

リモコン配線共本工事とする。室外機・室内機共耐震搬れ止め、転倒防止を施す事。室外機はSUS製ボルトにて固定、Wナットにて締付けの事。

アンカーはケミカルアンカー仕様。機器は同等品以上とする。室外機は防振ゴムシートを敷くこと。パッケージエアコン室外機には防護ネットを施すこと。

機器の製作仕様は国土交通省仕様とする。但し該当しない機器については製造者標準仕様による。

記号	冷媒配管サイズ		室内外連絡線
	液管	ガス管	
Ⓐ	Φ 6.4	Φ 12.7	VVF2.0-3C

図中記号凡例

■	(7)	RC壁コア抜き補修 Φ100
■	(1)	RC壁コア抜き補修 Φ75
■	(2)	RC壁コア抜き補修 Φ50
●	(1)	RC床コア抜き補修 Φ75

凡例

図示記号	名 称	配管材料	防露塗装仕様
— R —	冷媒管	空調用保温付被覆銅管	屋内露出: 配管化粧カバー 屋外露出: ポリスチレン成形+SUS鋼板ラッキング
— D —	ドレン管	保温付V P ※屋外はか-VPとする	

原図: A2

